

くものいと No.30

KU MO NO I TO

2001 September 15

関西クモ研究会

大阪府茨木市

くものいと

No.30,Sep.2001

目次

特集	クモを飼う～Spider Rearing～	
1	アシナガグモを飼う	吉田 真
3	京都府のイソコモリグモ	吉田 真
5	ワシグモを飼う	加村隆英
8	アリグモを飼う	柘元ともこ
10	ショウジョウバエの飼い方	渡部 健
12	コガネグモ「シマちゃん」～外飼いの記録・ちょっとだけ～	柘元ともこ
	フィールド紹介④	
14	アイチミジグモがいる淀川河川敷【大阪府大阪市東淀川区豊里】	野嶋宏一
	同定指南Ⅳ	
16	ワシグモ科 <i>Gnaphosidae</i> (その3)	加村隆英
	海外の研究トレンド (4)	
18	クモ糸のアミノ酸配列の進化	柘元敏也
	クモリスト	
20	京都府産クモ類目録	吉田 真
	《寄稿》	
38	姫路にもいたクロガケジグモ	船曳和代
40	水平円網を張るクモ6種の生態的分布	吉田 真
	カルチャーCulture	
46	三朝温泉で見つけた美しいクモの切り絵	船曳和代
49	とまどい =こんなクモ、みつけた=	石井こうこ
	報告	
51	国際クモ学会 in Africa	柘元ともこ
55	会費納入のお願い／ちょこっとニュース	
56	編集後記	

特集

クモを飼う

Spider Rearing

30号の特集は「クモを飼う」です。

みなさんも一度は、観察用として、実験用として、あるいはペットとしてクモを飼った経験があるのではないのでしょうか。クモの飼育は意外に簡単でしたか、それとも難しかったのでしょうか。今回は、クモを飼ったことがある方々に、飼育の際の苦労や工夫、コツなどを聞いてみました。今後のクモ飼育の参考になれば幸いです。

アシナガグモ

アシナガグモの飼育

吉田 真

昨年の6月18日に鹿児島県で、アシナガグモの卵のうを採集した。直径2cm、長さ10cmほどの管瓶に卵のうを入れ、細かいメッシュの網で蓋をした。湿度を保つために、1日に1回、霧吹きで水をスプレーした。6月26日に仔グモが出のうしたので、数日後に仔グモを1匹ずつ小さな管瓶に入れ、飼育することにした。

仔グモの餌には、大変苦労した。大学キャンパス内で落ち葉を集め、吸虫管で、トビムシなど微小な餌を集めた。最初は大熊式吸虫管を使ったが、フッと吹いてトビムシを管瓶に落とそうとしたところ、風圧で仔グモがどこかに吹き飛ばされてしまった。そこで、普通の吸虫管で集めたトビムシをピンセットで摘んで、管瓶に入れてやった。動き回るトビムシを傷つけないようにピンセットで摘むのは、非常に難しかった。次の日、トビムシたちは食べられたあともなく、みんなひからびて死んでいた。一日一回の水スプレーでは、トビムシにとっては乾燥しすぎているということだろう。

そこで、湿度を保つために、内側を水で濡らしたコルク栓で蓋をした。トビムシが干からびることはなくなったが、アシナガグモはほとんどトビムシを食わなかった。密封しているので、カビが生えたりもした。そこで、捕虫網をスイープして集めた双翅類を与えたが、アシナガグモには大きすぎたようで、ほとんど捕獲されなかった。0.5mmくらいの微小な双翅類を与えれば良かったのかもしれないが、そのような昆虫を採集することができなかった。

悪戦苦闘して私がたどり着いた結論は、「共食いさせる」というものであった。仔グモを3匹ずつ管瓶に入れて、放っておくのである。そのうちに2匹が食われ、大きくなった1匹が残った。そこで、まだ何も食べていない小さな仔グモを2匹追加した。「餌」の仔グモがいなくなると、京都で採集した卵のうから生まれたアシナガグモの仔グモを餌とした。

このようにして3週間ほど飼育し、体長3mmほどになった段階で、野外で採集した

昆虫を与えた。夜な夜な近所の自動販売機を見回り、その光に惹かれてやってきたユスリカ、カゲロウ、トビケラ、蛾などを吸虫管で採集した。この採集風景は世間の人には相当に異様に映るらしく、私が採集していると、誰も自動販売機に寄りつかない。営業妨害をやっているようなものである。

吸虫管で集めた昆虫を、逃がさずにアシナガグモの管瓶に放り込むのも難しい。試行錯誤の結果、虫の入った吸虫管を冷凍庫に1分くらい入れ、動けなくなった虫を手早く管瓶に放り込むことにした。もたもたしていると、「生き返った」虫たちが飛び回り、うちの嫁さんに怒られることになる。

体長3mmほどのアシナガグモはユスリカをもっとも好んだ。羽アリは苦手のように、アシナガグモは羽アリが近づくと逃げ回った（情けない!）。少し大きくなると、カゲロウ、トビケラ、蛾なども食べるようになったが、羽アリは全く受け付けなかった。2、3日に1回餌を与えていたが、クモが大きくなるとたくさん食べるので、餌集めも大変だった。餌を放り込むとすぐに食べる奴もいるが、なかなか食べないシャイな奴もいる。後者の場合は、放っておくとだんだんやせてくるので、何とかしなくてはならない。拒食症の子を持つ親の心境である。管瓶をくるくる回したりして、餌をクモに接触させると、いきなりつかまえて食べたりする。手の掛かる子やね、君は!

苦勞のかいあって、飼育した10匹のうち、5匹が2ヶ月弱で親になった。メスは3匹で、1匹は産卵した。5匹とも、野外の成体に比べてかなり小さかったのは、たぶん餌不足のせいだろう。

ともかくも、私でも飼育できることが分かった。飼育の極意は、八幡さんの言葉によれば、ひとえに愛情である。なぜこの子は元気がないんだろう。餌不足か、喉が渴いているのか、脱皮する直前だろうか、など我が子のように心配するのだ。そうすれば、可能なものなら、飼育はできる。

いま、私はイソコモリグモを5匹、飼育している。見栄えも良く、なかなか可愛いクモである。そのほかに、コガネグモとオニグモも、「加治木式飼育籠」で飼育していたのだが、餌やりが大変で、野外に返してしまった。

イソコモリグモ

京都府のイソコモリグモ

吉田 真

加賀海岸で徳本洋さんの特訓を受け、イソコモリグモ調査のノウハウを教わった私は、2001年6月1日と2日に、京都府の海岸を調査した。その結果、久美浜町の箱石浜、網野町の琴引浜、丹後町の平（へい）の3地点で、イソコモリグモ多数の生息を確認した。平は宇川の河口である。これらの場所には砂浜の上部に海浜植物帯があり、箱石浜には海浜植物帯の背後にクロマツの防風林があった。海岸が岩場になっている場所（たとえば、経が岬から伊根町を経て天橋立に至る海岸線）には、砂浜に穴を掘るイソコモリグモはもちろん生息しないが、砂浜であっても海浜植物帯がなく、砂浜のすぐ横に道路が走っている場所などでも、イソコモリグモを見つけることができなかった。竹野町の海水浴場の隣には、小さいながら海浜植物帯を備えたきれいな砂浜があるが、ここでもイソコモリグモを見つけることができなかった。舞鶴湾に注ぐ由良川の河口付近には大きな砂浜があり、海浜植物も生えているが、イソコモリグモは発見できなかった。徳本さんの話では、内湾の浜にはいないことが多いという。

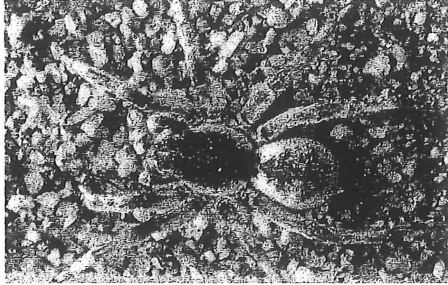
加賀海岸・箱石浜・琴引浜で採集したイソコモリグモ5匹（昨年生まれの幼体4匹、一昨年生まれの成メス1匹）を、現在飼育している。幼体は7.5cm×7.5cm×5.0cmのタッパーを、成メスは直径9cm・高さ18cmのガラス瓶を飼育容器とした。容器には水で湿らせたティッシュの小片を入れた。成メスの容器には、園芸用の篩で小石を取り除いた砂を入れ、容器のガラス面に沿って砂に穴をあけ、ガラス瓶の外側を黒い紙で覆った。成メスは二、三日かけて穴を掘り、その中に潜んだり、砂の表面で餌を捕獲した。穴を掘った直後に成メスは産卵し、20日ほど卵囊を糸疣に付けていたが、その後卵を食べてしまった。

餌として、野外で採集した昆虫類と、サシムシから育てたハエを与えた。魚釣りの餌として売られているサシムシはハエの終令幼虫であるが、低温下では蛹化しない。そこでサシムシをシャーレに入れて冷蔵庫で保存し、二、三日ごとに10匹ずつサシムシを取り出してシャーレに入れ、常温で蛹化させた。サシムシは常温で約10日でハエになる。最初は、捕虫網の中でシャーレを開け、ハエを手で掴まえてクモの飼育容器に入れていたが、このやり方だとハエが逃げることもある。そこで最近では、蛹を1個ずつ5ccの管瓶に入れ、ハエが羽化したら管瓶ごと飼育容器に入れることにした。管瓶の蓋を開け、ハエが逃げる前に飼育容器の蓋を閉めればよい。

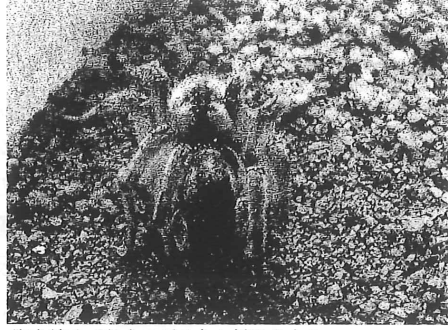
イソコモリグモはハエを喜んで食べるが、栄養が偏ると脱皮できない可能性もあるので、時々野外で採集した昆虫を与えている。昨年9月10日に京都自然観察指導員会議の留岡さんからいただいたカトウツケオグモ（成メス）も同様の方向で飼育した。このクモは、今年の3月上旬まで生きた。ひょっとして、カトウツケオグモの長寿記録かもしれない。

クモの容器は、餌の食いかすやクモの排泄物ですぐに臭くなるので、週に二回ほど

水を付けたティッシュでそれらを拭き取った。砂を入れた容器はそうにできないので、ピンセットで食いかすを摘んで捨てた。オニグモやコガネグモの飼育も始めており、扶養家族が増えて、私もなかなか忙しい！



1匹だけは砂入りの特別室に。



脚を縮めて具合の悪そうな様子をする。

追記

イソコモリグモはヒシバツタやイナゴも好き

榎元ともこ

吉田先生がエクアドルへ2週間旅行されることになり、先生の大切なイソコモリグモ5匹をお預かりすることになった。

7月21日、クモを受け取る。エサ用のハエが妙に気持ち悪い。ほとんどが蛹の状態であるが、中には成虫になっているハエもいる。先生に何うとハエの蛹は、あまり高温だと羽化せずに死んでしまうらしい。今年は猛暑で、我が家も日中はクーラーをつけなければ32度以上になってしまう。そこで、急ぎよ、イソコモリグモを我が家方式で飼うことにした。

つまり、タッパーウェアに入っていたクモをガラス瓶に移してガーゼでフタをし、水は朝晩霧吹きで補給する。エサは野外で採集したバツタやコオロギ、イナゴをやることにしたのである（この時期、ハエが捕れない）。

ちゃんと食べてくれるかどうか心配したが、ヒシバツタを入れてやるとすぐに飛びついた。ハエトリグモのように狙って飛びつくというのではなく、目の前にあるエサを引き寄せるように、一瞬のうちにくわえてしまう。食べ方もハエトリグモとは違い、食い終わったエサはぐちゃぐちゃにされ、ほとんど原形をとどめない。恐るべしイソコモリグモ。

しかし、見た目はとてもかわいい。腹部の背面は品の良いベージュで裏側は黒くおしゃべりな色をしている。色彩的にはシャム猫のイメージだ。目が大きく、のぞき込むと、イソコモリグモもこちらを見るので目が合う。

瓶の中に草を入れて足場を作ってやると、なぜか草を伝って上に登り、ガーゼにへばりつく（つまり、逆さまになっている）。何かにつかまっていたいのだろうか。

また、瓶を持ち上げクモをのぞくと、脚を縮めていかにも具合の悪そうな様子をしていることがある。もしかして死んでしまうのでは？ と、こちらはオロオロするのだが、瓶を置いてしばらくすると、脚を伸ばして悠々としている。もしかして、それって死にそうなの？ 私はこの態度に3、4回だまされた。

8月9日、エクアドルから帰ってこられた吉田先生に、イソコモリグモ5匹をお返りする。とにかく、先生もクモも無事でホッとした。

ワシグモ

ワシグモを飼う

加村隆英

私がクモを飼う場合

一般の人たちに、「私はクモを研究しているんです」という話をする、「じゃあ、たくさんのクモを飼っているんですか」とよく聞かれます。生き物の研究というと、飼育による観察というのがイメージされやすいのでしょう。たしかに、私もクモを飼うことがあります、それは研究の上では補助的なものにすぎません。

私は分類学を手がけていますので、研究の具体的な作業のほとんどは、標本を相手にしたものになります。分類学の研究には成熟個体の標本が必要です。私はワシグモ類を専門にしているのですが、ご存知のようにワシグモというのは、一般に採集される機会があまり多くはありません。成熟した個体が採集できればラッキーですが、採集したものが未成熟であることも少なくないのです。

採集には、ふつう、ある程度の時間とお金をかけますから、採れたものが成熟していないからといって、逃がしてしまうのはもったいない話です。そこで、そういう場合は、生きたまま連れて帰って飼育することになります。飼育して、うまく成体になってくれば、それは分類の研究に有用なものになります。

採ったクモが成体でなかったら

私はいつも、ワシグモを採集したときは、まず空の瓶に入れて、ルーペで成体か否かを確認します。成熟していないのに、いきなりアルコールに放り込んで殺してしまつては、元も子もありませんから。

触肢が膨らんでいる雄や外雌器が少し形成されかかっている雌で、あと1回脱皮すれば成体になりそうなものは必ず連れて帰ります。ただし、あまりに小さくて、成熟するまでにかなり時間がかかりそうなものは、逃がすこともあります。

実際に飼育して、予想どおりに1回の脱皮で成熟してくれると、うれしいものです。しかし、ある日、脱皮しているのを見つけて、「よっしゃ、脱いだ！」と喜んだのも束の間、よく見ると、「あかん、まだや、もう1回脱がなあかん」ということもあります。とてもタイミングのいい時は、採集したその日の夜に脱皮して成体になることもありますし、一方、半年近くも維持して、ようやく成熟するということもあります。もちろん、何か月も飼育したものの、結局、うまく成体にならずに死んでしまうこともあるのです。

ワシグモを飼う

一般に、クモの飼育でやっかいなのは餌の確保です。餌として生きた虫を用意しなければならぬのが、手間のかかることです。私は学生の頃は昆虫学研究室に在籍

していただきましたので、当時は昆虫飼育用の恒温室を利用することができました。餌用として痕跡翅型のショウジョウバエを飼いながら、長期間に渡ってクモの飼育をしたこともあります。

しかし、現在はそのような設備がありませんので、自宅の室内やマンションの廊下、勤務先の大学の研究室や時には大学の便所などで、カ、ユスリカ、チョウバエ、あるいは別の種の小型のクモ（例えば、オオヒメグモの幼体やシモングモなど）を探しては餌にしています。

餌の確保さえできれば、ワシグモの飼育はむずかしいものではありません。私はふつう、直径が 1.5 ~ 2 cm、長さが 7 cm ほどのガラス管瓶を使います（これは採集の時に使うものと同じです）。

瓶の中には、クモが這い回るための足掛かりになるような植物の葉または紙片を入れます。足掛かりになるものを入れないと、クモの脚先がガラス面で滑って、落ちてくることができずに、体力を消耗して弱ってしまうことがあります。

瓶の口はコルクで栓をします。少なくともワシグモの場合は、脱脂綿の栓は良くありません。ワシグモは狭い隙間に入り込もうとすることが多いので、脱脂綿がゆるかったりすると、知らないうちに外に逃げることがあります。また、クモが脱脂綿とガラスの間に潜り込んだ状態で落ちてしまうこともあり、そういう場合は、餌を入れるために栓を抜いた瞬間に逃げられてしまうおそれがあります。そういうことを考えると、コルク栓がベストです。

少し気をつけるべきなのは、水分の管理です。乾燥には当然、注意しなくてはなりません。一方、過湿も禁物です。少々、水分が少なくてもすぐに死ぬことはありません。しかし、水分が多すぎる場合は、短時間のうちに弱って死んでしまいます。したがって、水を含ませた脱脂綿を瓶の中に入れるのは、過湿になりがちなので、避けたほうが無難です。

簡単なのは、生の植物の葉を入れることです。ふつうは、これで程よい湿度が得られるようです。こうすれば、葉そのものがクモの足掛かりにもなりますから、別に紙片を入れる必要もありません。葉が乾燥したら、新しい葉と取り替えるか、または、葉の上に水を1滴か2滴だけ垂らすようにします。

生きたクモを連れて帰るときのこと

瓶に生の葉を入れる方法は、野外で採集したクモを持ち帰る際にも便利です。クモを入れた瓶にとりあえず葉を入れておけば、数日間は大丈夫です。

ただし、植物の種類によっては、クモにとって有害な成分をもつものがある可能性があります。かつて、手近にあった種類の分からない植物の葉を瓶に入れたところ、その日の夜にはクモが全部死んでしまっていた、という経験があります。この時は、その植物の種類を確かめませんでしたので、植物の有毒成分が原因であると断定はできません。しかし、それ以後は用心して、正体の分からないものは避けて、できるだけイネ科やキク科の植物の葉を使うようにしています。

また、めったにないことかもしれませんが、場所によってはアリに注意しなければなりません。西表島でのことです。採集したクモをフィルムケースに入れ、その蓋に

数個の空気穴を開けて、民宿の室内に置いておいたところ、夜の間には空気穴から小さなアリが内部に入り込んでいたことがあります。クモは殺され、バラバラにされて、外に運び出されていきました。空気穴は尖ったピンセットの先で開けたほんとは小さなものだったのですが、アリは見事に侵入していました。アリを侮ってはいけません。

それから、言うまでもないことですが、車の中のような高温になるところに、短時間でも、生きたクモを放置してはいけません。すぐに死んでしまいます。

飼育のおもしろさ

上に述べたように、私の場合は、分類の研究に用いる標本を得るために、半ば必要に迫られてクモを飼うことが多いわけですが、それでも、飼育の過程そのものの中にいくつかの楽しみを見出すことができます。

飼っている動物が餌を食べるのを見るのは楽しいものです。クモの場合もそれは同じです。ワシグモは徘徊性のクモで、餌捕獲用の網を張ることはありませんし、また、視覚もあまり発達していないようです。彼らはおもに触覚に頼っていて、歩脚の先に虫が触れると電光石火の早技で捕まえます。

餌を与えて、うまく捕まえれば「よっしゃ、やった!」という気持ちになります。もちろん、捕まえそこなうこともあるわけで、そんな時は「おっと、おいしい!」、何度も失敗すると「おいおい、なにしとんねん」、最後にやっと成功すると「よしよし、ようやった」ということになります。

また、餌を与えても食べなくなる時があります。そういう時はちょっと心配です。実際、何が原因なのか分からないまま、弱って死んでしまうことがあります。しかし、餌を食べないのは、脱皮の前触れであるのかもしれない。しばらく待っていると予想どおりに脱皮して、喜ぶこともあるのです。そして、うまくいけば、脱皮のようすをつぶさに観察することもできます。

生きているクモを間近で見るとは楽しいものです。もっとも、私の場合は、飼っているクモが成体になってしまえば、それを繁殖させようなどということも考えずに、さっさと標本にしてしまうのですから、勝手なものです。

ともあれ、飼育の過程で生きているクモをながめることは、やはり、それ自体がひとつの楽しみであることはたしかです。

アリグモ

アリグモを飼う方法

梶元ともこ

アリグモの飼育は簡単です。ハエトリグモを飼ったことのある方なら誰でも飼えます。

1) アリグモを採集する。

アリグモはご存じの通り、木の葉の上を徘徊しています。見つからないときは木の葉に付いている白いだ円形の巣を探してください。その中に隠れています（空き家のこともあるけれど）。

採集するとき木の葉もいっしょに入れてやると、巣を作ります。葉がなくてもケージの隅を利用して巣を作るので大丈夫ですが、葉があると、そこに巣を作り、時には糸を使ってケージにしっかり固定したりするのでおもしろいです。

2) 飼育ケージ

私の場合は、実験道具などを持っていないので、ケージにはジャムなどのピンを使用しています。インスタントコーヒーのピンのように深いものよりは、ジャムピンのような広口で浅めのものの方が、掃除しやすく便利です。

ピンの口はガーゼでフタをして輪ゴムで止めておきます。ガーゼを使うと中が蒸れず、しかも水やりが簡単です。水は霧吹きでガーゼの上からやります。水は毎日やります。

3) 餌の調達

クモ飼育でいちばん大変なのが餌やりです。当然のことながらクモは生きた餌が大好きです。だから、飼育者は餌の調達に奔走しなければなりません。

ハエトリグモは一般に自分の体と同じぐらいか、それより大きな餌も採るようですが、アリグモはあまり大きな餌は好みません。餌としていちばん適当なものはショウジョウバエで、かなり小さなハエでも食べます。成体の雄ならウンカ程度の大きさのものでも採れます。

私の場合、近くの川の土手を餌とり場に利用しています。近江神宮の横を流れる柳川の土手と、皇子が丘公園（ここばかり）の脇を流れる親水公園の土手の2カ所です。川の土手なら網を振り回しても怪しまれないし、水辺なので昆虫が豊富だからです。特に親水公園の方は河川改修で土手にクローバーが植えられ、そこにショウジョウバエがわんさと湧くので、比較的容易に餌が調達できます。

餌は捕虫網で草の中をスウィーピングして捕獲します。採れた餌はジッパー付きビニール袋（ジブロックなど）に入れます。昨年、夫が研究のために30匹ほどアリグモを飼育しました。いくらアリグモの体が小さいとはいえ、30匹となると食べる量も半端ではなく、多いときで4~5袋ぐらい採りました。

4) 餌やり

餌を採ってきたら、ビニール袋のジッパーを少し開け、そこへ吸虫管の先を差し込んで中のハエを吸い込み、ピンにかぶせたガーゼを少し持ち上げ、中にハエを吹き込みます。輪ゴム止めなので一人でも作業ができ、よほど失敗しない限り、ハエが逃げることはありません。

だが、吸虫管でハエを吸い込んでいるとき、途中で息が続かなくなって息を吐いてしまうと、部屋中ハエだらけになるので注意が必要です。また、ビニール袋の中にはできるだけカメムシが入らないようにしましょう。間違っただけで吸い込んでしまうと、悲劇が待っています。

餌はだいたい3日に一度ぐらいの割で与えます。忙しくて餌を取りにいけないときは、4, 5日空いてしまうこともあります。一度にやる餌の量ですが、ハエの大きさにもよりますし、その日の餌の採れ具合によっても違います。野外で毎日どれぐらいの量の餌を食べているの分からないので、この量でいいのかどうかは分かりません。ハエは2日ほどで死んでしまうので、そのまま食べられずに残っていることもあります。3日に一度ならやせることはありませんが、1週間空くとアリグモはスマートになってきます。

5) 餌確保の課題

6月から7月の初めにかけては、おいしそうなショウジョウバエがどんどん捕れますが、真夏になるとめっきり減ってきます。バッタなどの昆虫もみんな大きくなって、小さな餌の確保が難しくなってきます。

そこで、餌の飼育は必要になってきます。この餌の飼育に関しては渡辺健氏が良い方法をお持ちです。10ページをご参照ください。

以上のように徘徊性のクモであるアリグモの飼育は比較的簡単です。タイミングがうまく合えばメイティングもできます。ただし、子グモの育て方がわかりません。なにより餌の確保が難しいのです。どなたか、子グモへの餌の与え方に関して、ノウハウをお持ちの方がいらっしゃいましたら教えてください(共食い以外の方法)。

エサの飼育

ショウジョウバエの飼い方

渡部 健

この冊子を読んでいる人なら、「クモを飼ってみたい!」と考えたことが一度はあるはず。しかしながら、プロの飼育家(誰のこと?)ならともかく、クモのための餌を毎日、野外で集めるのは大変な作業です。クモによって、必要な餌量や食べれる餌の大きさが違うということも問題です。でも、もし飼ってみたいと考えているクモが、ショウジョウバエを食べることができれば、餌供給の問題は解決できます。以下は、私がウズグモを飼育するときに、ショウジョウバエを餌として安定供給することができるように考えた、ショウジョウバエ飼育ケースの説明です。

水槽を使うと便利です。まず水槽を横倒しにして、水槽の口を横向きにします。水槽の中に、バナナを入れたピンを5~6本置きます。ショウジョウバエはバナナに卵を産み、孵化して出てきたウジはバナナを食べて成長しサナギになり、そして翅をもって飛び回る成体になります。基本的には、箱の中に餌をおいて、ショウジョウバエに勝手に増えてもらうということなのですが、いろいろ問題点もあります。

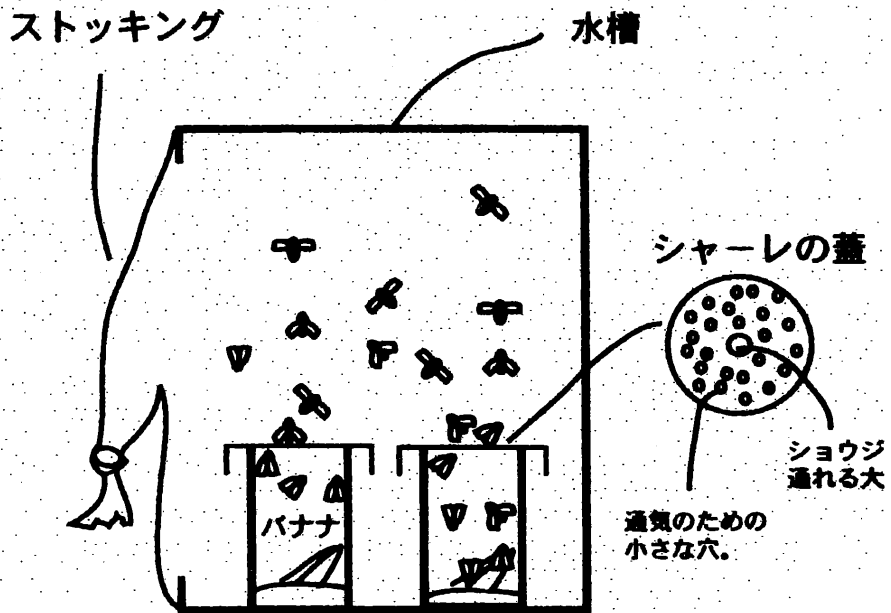
一つは、家の中に、ショウジョウバエがブンブン飛び回っては困ります。ショウジョウバエを水槽の中だけに押込めるために、入口にストッキングを被せます。ストッキングを使う利点は、通気性が良いこと、そして二つの穴が開いていることです。適当な長さで切り取って、手を通せるようにして、水槽内の餌をとりだしたり、ショウジョウバエを捕獲する時に、両手で作業することができます。終わった後は、軽く縛っておけば、ショウジョウバエが逃げ出すこともありません。また、他の種類のショウジョウバエが混じることも防げます。ちなみに、使える水槽の大きさは、ストッキングのウェストのサイズによって制限されます。

もう一つ、これは設置する餌ピンの数にもよりますが、餌に使うショウジョウバエ成体の数が大きく増減するようになり、あるときには必要以上にいるけど、しばらくすると、ウジやサナギばかりで、必要な数だけの成体が供給できないという状態になることがあります。実験をする場合には、ある期間、安定した餌供給が必要になるので、これでは困ります。経験的なもので、この対処法が正しいのかどうかについて確信が無いのですが、図で示したようなシャーレの蓋を使うことで、成体個体数の増減幅を押さえることができています。こうした蓋を置くと、ショウジョウバエ成体の接触頻度が低下し、繁殖活動の集中が妨げられているのではないかと考えています。

このシステム、つまりは、バナナでクモを飼っていることになります。栄養の偏りも心配ですが、ウズグモの例でいうと、本来、冬眠するはずの世代の垂成体を晩秋から室内(室温25度)で飼育し、翌年の3月上旬、野外で冬眠開けの個体が見られる時期まで飼い続けることができました。

ハエトリグモなど、小型の徘徊性のクモを飼育するときも便利だと思います。是非

お試しください。



番外編

コガネグモ「シマちゃん」～外飼いの記録・ちょっとだけ～

梶元ともこ

6月3日の奈良の採集会で、雌のコガネグモを採集しました。奈良市はコガネグモが多いのか、立派な個体をたくさん見かけました。採集会なので、そのままアルコール瓶に入れても良かったのですが、あまりにも美しい縞模様なので、すぐに殺してしまうのは忍びなく、生きたまま持ち帰りました。

持ち帰ったのはいいのですが、適当なケージがなかったので部屋の中に放すことにして、窓辺の観葉植物に止まらせておきました。次の日、モンシロチョウを捕ってきて、目の前に近づけてみましたが、取ろうとしません。仕方なくそのままにしていると、3日後の6月6日に脱皮しました。黄色いストライプが美しい、さらに立派なクモになったので、シマちゃんと名付けました。

次の日にはガラス戸とレースのカーテンの間にむちゃくちゃな網を張りました。そこで網に餌（シジミチョウ）を付けてみたのですが、まったく興味を示しません。バツもだめ。やはり円網のクモを育てるのは難しいですね。このまま餌が採れないと死んでしまうので、仕方なく外飼いにすることにしました。

6月8日、歩いて7～8分のところにある「皇子が丘公園」に連れて行き、すぐ側に池（雨が降ったときだけ池）と小さな川（といっても3面張り）がある植え込みの中に放してやりました。シマちゃんはここに居着いてくれるのでしょうか。

次の日、ドキドキしながら公園に行くと、果たしてシマちゃんは同じ場所にきれいな円網を張っていました。網の位置は地面から50～60センチほどのところ。木の陰なので、これなら鳥に狙われにくそうです。網には何にも餌が付いていなかったのですが、急いでモンシロチョウ（たくさんいて採りやすかった）を採って、網に付けてやりました。シマちゃんは網が振動するとすぐにとんできて、一気にモンシロチョウに糸をかけ食べ始めました。シマちゃんにとっては1週間ぶりの食事です。

こういう時って、何というか、すごくうれしいんですね。めちゃ感激っていうか、食べてくれた！ これで、大丈夫って感じ。私は満足して帰りました。

ところで、「餌をやるなんて、過保護じゃないか」「自然のままに放っておけ」という方がいらっしゃるかもしれません。でもね、それじゃあ、ただ逃がしただけなんですよ。私はシマちゃんを「外飼い」にしたかったのです。つまり、飼っている場所は野外ですが、ちゃんと毎日餌をやる。それが外飼いということなのです（と私が決めた）。外飼いにしたもうひとつの理由は、毎日餌が採れたら、どれぐらい同じ場所に滞在するのかわかるかもしれないと思ったからです。

こうして、私の公園通いが始まりました。

6月10日、シマちゃんは網に隠れ帯を付けました（4分の1）。この日もモンシロチョウを付けてやりました。とんできてキャッチします。かわいいヤツ。

6月11日、やはり隠れ帯は4分の1。餌のモンシロチョウをすぐに食べました。

6月12日、隠れ帯は3本になっていました。この日もモンシロチョウをやったのですが、採るには採るのですが、糸で巻いたまま、この日はなかなか食べようとしません。そういえば、シマちゃんのお腹はパンパンに張っています。きっとお腹がいっぱいなのでしょう。

6月13日、昨日のモンシロチョウは羽だけになって、網の下に落ちていました。この日の隠れ帯は3本。ところが、餌のモンシロチョウを近づけようとする、な、な、なんと網をふるわせて威嚇行動をするではありませんか。モンシロチョウに飽きてしまったのかと思い、小さなイナゴを捕って網に付けてやったのですが、やっぱり採ろうとはしません。なんだか悲しい。

6月14日、今日はくっきりと美しい完璧なX印の隠れ帯を付けています。しかし、2cmぐらいのバツタを網に付けてやっても採ろうとはせず、いったん網の上の方へ逃げ、すぐに真ん中に戻ってきた威嚇します。静かにしていたバツタがもがきはじめると、ようやく飛びついて糸巻きをしました。

6月15日、隠れ帯が半分以上なくなっています。モンシロチョウを網に付けたら一応やってきて糸で巻きます。やっと落ち着いた感じです。また、明日くるからね、とってうちに帰りました。

6月16日、夫にもシマちゃんを見せようと、いっしょに公園に出かけました。ところが、シマちゃんの姿が見えません。網は同じ場所に張ってあります。昨日付けたモンシロチョウの食べかすが網に残っています。モンシロチョウばかり食べさせられるので嫌気がさして、どこかへもっとおいしい餌を探しに行ってしまったのでしょうか。それにしても網は、いままでそこに主がいたような風情です。ほら、よく探偵小説に出てくるでしょ「まだ、ふとんが暖かい、遠くへは行ってないぞ！」っていう、そんな感じです。

しばらくあたりを探してみましたが、シマちゃんのあのくっきり鮮やかな黄色い縞模様の背中は見あたりません。夫は狩りパチにやられたのではないかと言います。あるいは鳥に食べられたのかもしれませんが。「外飼いのクモ」なんてやってられないよと言って、どこかへ行ってしまったのかもしれませんが。きれいなまま壊れずに残った網が妙に寂しさを誘います。

このあと1週間、毎日様子を見に行きました。しかし、シマちゃんは2度とこの場所には戻りませんでした。こうして、私の短いコガネグモの外飼いは終わりました。

結局、何も分かりませんでした。天敵が結構多いということだけは感じました。大津市のなかでも、私たちの住んでいるあたりではコガネグモの成体を見かけることはあまりありません。子グモ(たぶんコガネグモ)は比較的好く見かけますが、成体になる前に姿を消してしまいます。よほど腕の良いコガネグモハンターがいるのかもしれません。

また、いつか外飼いにチャレンジしてみたいと思います。特に、お庭のある方はぜひ外飼いを試してみてください。ただし、毎日エサをやらなければ外飼いはなりません。エサをやらなければ、それはただ、庭にいるクモなのです。

フィールド紹介 ④

アイチミジグモがいる淀川河川敷

【大阪府大阪市東淀川区豊里】

野嶋 宏一

今回紹介するフィールドは、家から自転車で15分ぐらいのところにある淀川の河川敷です。私は平成9年に岡山から大阪に転勤になり、以降クモの採集にはほとんど行ってなかったのですが、昨年ちょっとしたきっかけで身近におもしろそうな場所があるのを知り、時々採集に出掛けています。

場所は天然記念物のイタセンパラで有名な淀川ワンド群の対岸の河川敷です。所々にヤナギが生育していますが、ほとんどがヨシやオギなどの草地で、堤防側には舗装道路が整備されています。周りが市街地のため、休日ともなると多くの人がランニングや散歩に訪れ、採集するのに少し気恥ずかしい場所でもあります。ここには木がほとんどないため、採集方法はスウィーピングや草を掻き分けて地面や草間にいる個体を採集するというものが主となります。このフィールドのポイントは「ココ」というところは特別なく、私は入りやすいあるいは少し我慢すれば入れそうという場所を探して適当に採集しています。

ここで採れた珍しいクモとしては、アイチミジグモ、マルセンショウグモ、ヒゲナガツヤグモなどが挙げられます。アイチミジグモはここではかなり普通に見られ、オギ原の地面に堆積した枯茎などを除けると見つかります。マルセンショウグモは少ないようで、これまで雄雌各1個体しか採集していません。雌は草の根元でハンゲツオスナキグモを捕食していました。

その一方で、河川敷ではどこでもいると思っていたドヨウオニグモやナガコガネグモが今のところまだ採集されていません。周りの市街化の状況、それに伴う餌昆虫の状況などが関係しているのでしょうか？

最後に、このフィールドでこれまでに採集した種のリストを示します。アイチミジグモを同定していただいた吉田哉氏に御礼申し上げます。

調査日：平成12年7月10日、12日、13日、15日、16日、20日、30日

9月2日、3日、10月15日

平成13年1月3日、5月12日

確認種リスト

ジグモ科：ジグモ

センショウグモ科：マルセンショウグモ

ホラヒメグモ科：チビホラヒメグモ

ヒメグモ科：ヒメグモ、キヨヒメグモ、ヨツコブヒメグモ、アイチミジグモ、ハンゲツオスナキグモ、スネグロオチバヒメグモ、シモフリヒメグモ、ハイヒロヒメグモ

コツブグモ科：ナンブコツブグモ

サラグモ科：クロケシグモ、ダイセツテナガグモ、ヨドテナガグモ、ナニワナンキン

グモ、ノコギリヒザグモ、セムシアカムネグモ、ヘリジロサラグモ、ツメケシグモ、アバタムナキグモ、コテングヌカグモ、アトグロアカムネグモ、セスジアカムネグモ
アシナガグモ科：ヒメアシナガグモ、ジョロウグモ、トガリアシナガグモ、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ

コガネグモ科：ビジョオニグモ、ギンメッキゴミグモ、シマゴミグモ、オノゴミグモ、コガネグモダマシ、ムネグロコガネグモダマシ、ゲホウグモ

コモリグモ科：ハタチコモリグモ、ハラクロコモリグモ、ウツキコモリグモ、ミナミコモリグモ、キバラコモリグモ

キシダグモ科：イオウイロハシリグモ

シボグモ科：シボグモ

ウシオグモ科：クロガケジグモ

ハタケグモ科：ハタケグモ

ハグモ科：アシハグモ

ガケジグモ科：シモフリヤチグモ

ウエムラグモ科：オトヒメグモ

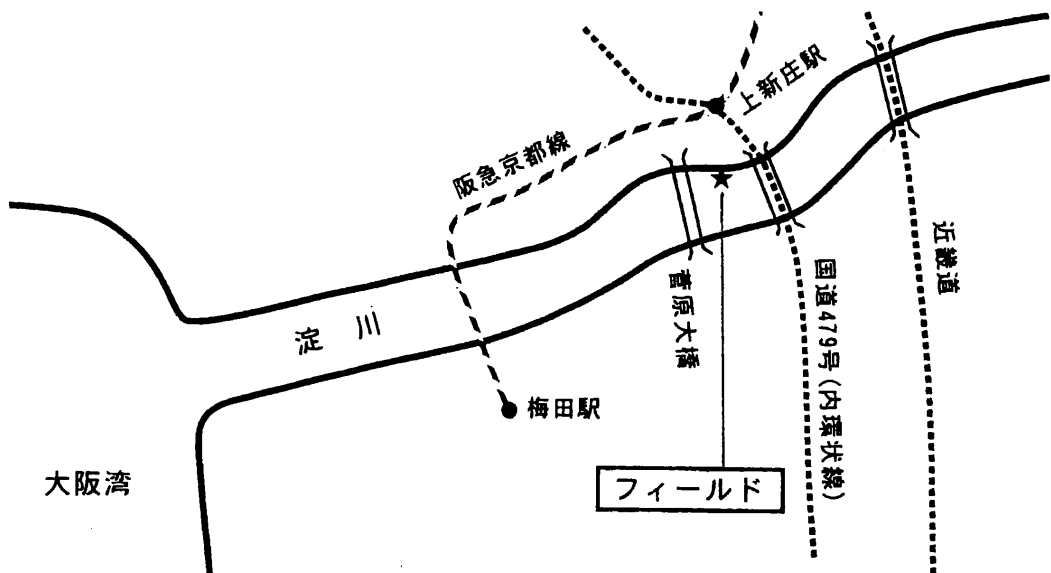
フクログモ科：ヤマトコマチグモ、コフクログモ、ハマキフクログモ、ヒメフクログモ、カギフクログモ

ワシグモ科：ヒメヨリメケムリグモ、メキリグモ、ヒゲナガツヤグモ、ヤマトフトバワシグモ、クロチャケムリグモ、クロケムリグモ

カニグモ科：ハナグモ、チシマカニグモ、オオヤミイロカニグモ

ハエトリグモ科：ネコハエトリ、マミクロハエトリ、クロツヤハエトリ、キレワハエトリ、ヨダンハエトリ、オスクロハエトリ、タイリクアリグモ、メガネアサヒハエトリ、ミスジハエトリ、チクニハエトリ、イナズマハエトリ、アオオビハエトリ、シラホシコゲチャハエトリ、ヒメスジハエトリ

以上76種



同定指南Ⅳ

ワシグモ科 *Gnaphosidae* (その3)

加村隆英

テオノグモ属 *Callilepis*

ワシグモ科の諸属において、上顎後牙堤の状態には大きく分けて三つの場合があります。一つは歯がない場合、二つめは1本ないし数本のふつうの形の歯がある場合、そして、三つめは通常の歯とは異なる特殊な形の突起がある場合です。

この三つめの場合のうち、図1のような卵形の突起をもつグループがテオノグモ属です。これはとても顕著な特徴ですので、これを確認することができれば、本属のクモであることは簡単に分かります。ただし、上顎後牙堤の状態を見るためには、上顎を前のほうに持ち上げなければなりませんので、古くて硬化している標本では、観察しにくいことがあります。ちなみに、この突起の形が大工道具の手斧に似ていることが和名の由来であるようです。(なお、外国には同じ特徴をもつ別の属が知られています。)

これ以外に、テオノグモ属の特徴として、背甲の幅が他属に比べてやや広いこと(図2)、後中眼が水平方向に細長いこと(図3)、が挙げられます。また、腹部背面には図2のような白色または黄白色の斑紋があることも目立った特徴です。

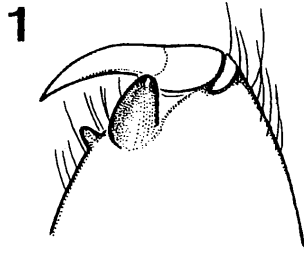
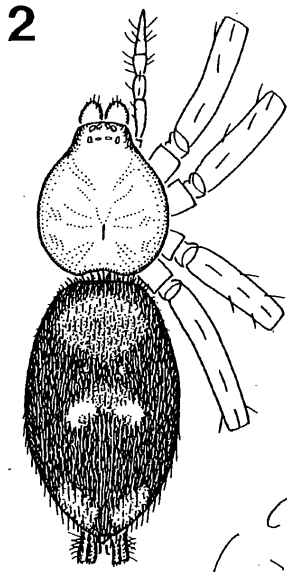
日本には2種が知られています。いずれも、旧北区に広く分布する種です。外見はよく似ていますので、正確な同定のためには、外雌器や雄の触肢を見なければなりません。

フタホシテオノグモ *Callilepis schuszeri* (Herman 1879)

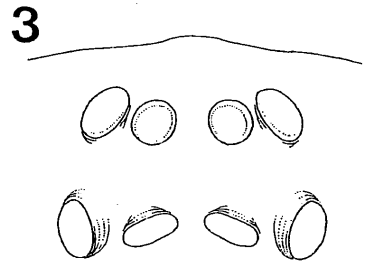
体長は♀ 4.5~7.0 mm, ♂ 3.5~5.0 mm。背甲は暗褐色で、白色の細毛が密に、黒色の短毛が疎に生えています。腹部は黒褐色で、腹背前端に灰黄色の斑紋、中央部に1対の白斑、後端部にはやや不明瞭な白斑があります。北海道と本州に分布しています。外雌器と雄の触肢は図4-6。

マユミテオノグモ *Callilepis nocturna* (Linnaeus 1758)

体長は♀ 4.5~5.5 mm, ♂ 3.5~5.0 mm。全体に前種によく似ていますが、背甲を被う細毛や腹部の斑紋が黄色(金色)がかかっていて、美しいクモです。北海道に分布しています。和名は北海道在住のクモ研究者・松田まゆみさんに因むものです。外雌器と雄の触肢は図7-9。

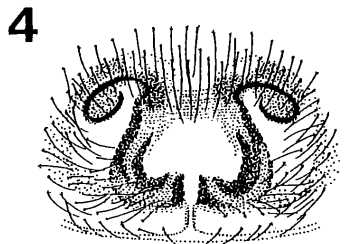


上顎後牙堤の卵形の突起

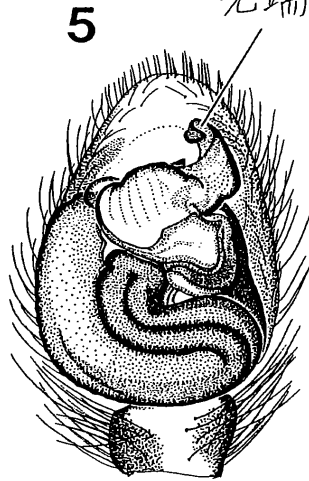


後中眼が平べったい

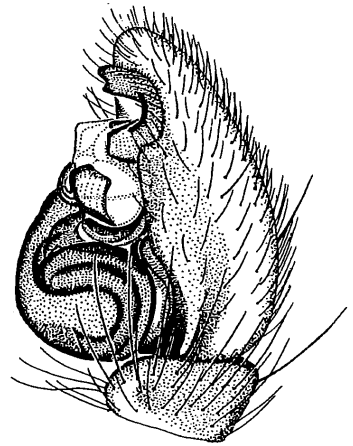
こんな形の
のリッジ



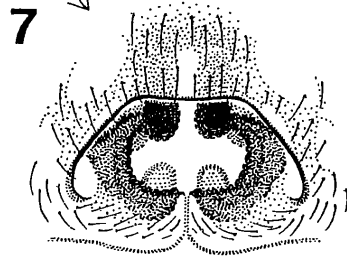
フタホシテオノグモ



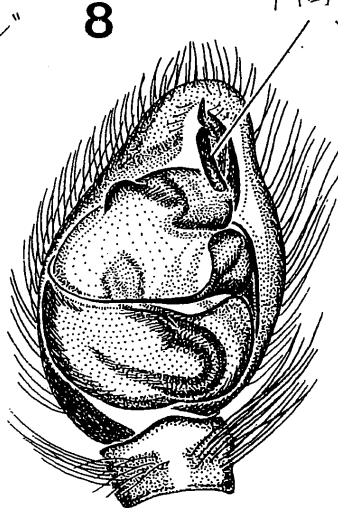
先端が少し曲がる



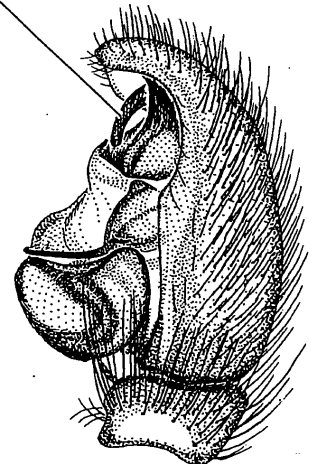
台形のリッジ



マユミテオノグモ



下向きの突起



クモ糸のアミノ酸配列の進化

榎元敏也

現在、地球上に生息するクモ類は少なくとも3万4千種以上はいるであろうと考えられている。そして、どのクモ類も糸を用いて生活しているが、異なる性質を持つ糸を様々な用途に用いている。たとえば、引き糸は非常に丈夫であるし、円網の横糸はよく伸び、元の長さの3倍ほど伸びる。

糸はフィブロインという酸に強いタンパク質でできていて、その遺伝情報はフィブロイン遺伝子族と呼ばれる遺伝子領域にコードされている。これらの遺伝子がつくるアミノ酸配列として、次の4つのモチーフ（アミノ酸の一次配列の部分的なパターン）が報告されている。

(1) ポリアラニン

A_n またはAAAAAAAAA...

(2) グリシン (G) とアラニン (A) が交互に配列している。

GA またはGAGAGAGAG

(3) グリシンと他のアミノ酸が配列している。

GGX またはGGXGGX : Xにはいろいろなアミノ酸があてはまる。

(4) グリシンとプロリン (P) に他のアミノ酸が配列している。

GPG(X)_n またはGPGXXXXXXXXX...

これまで、ジョロウグモの一種とオニグモの一種でDNA配列が調べられた結果、これら4つのモチーフは共通に存在していることがわかっていた。しかし、クモ目全体からみれば、ジョロウグモとオニグモの糸の分析だけでは、クモ類における糸の進化についてはほとんどわからない。そこでGatesyら(2001)は、これらコガネグモ上科以外にも、トタテグモ亜科のEuagrus属の一種やハシリグモなどの糸のアミノ酸配列を比較した。

この結果、どのクモでもアラニンやグリシンの多い構造は同様に、種が異なると各アミノ酸モチーフの配列には細かい違いはあるが、特に A_n となるモチーフはコガネグモ上科でもタランチュラでも共通で、化石の情報などを加味しても、これらのモチーフは2億4千万年前の三畳紀から存在していたことになる。コガネグモ上科では上記の A_n 、GA、またはGGXとなるモチーフはヒメグモ科のゴケグモでも同様に存在していることから、これらのアミノ酸配列モチーフは1億2千5百万年以上にわたってコガネグモ上科で安定して存在していることになる。

糸の力学的性質は糸を引き出す速度によっても影響をうけることが知られている。しかしながら、アミノ酸の一次配列は糸の性質に大きな影響を及ぼすこともまちがい

ない。先の4つのアミノ酸配列のモチーフはクモの進化においてずっと保持されてきた配列であることから、これらのモチーフはクモ糸のもつ強度や伸縮性など優れた力学的特長を理解する上で重要な部分であろう、とGatesyらは考えている。

クモの糸の研究というのはまだまだ入り口にいる段階である。ジョロウグモの引き糸のように入手しやすい糸については多くの研究が行われている。しかし、糸は引き糸や網だけでなく、卵囊をつくったり、巣をつくったり様々な用途に用いられている。さらに、3万4千種以上のほとんどのクモの糸のアミノ酸配列どころか、力学的性質についてはまったく調べられていない。それでも、この研究のように、少しでも多様なクモ類の糸の研究が進んでゆくことで、クモの多様性創出のなぞはすこしずつ明らかになってゆくはずである。

参考

Gatesy, J., C. Hayashi, D. Motriuk, J. Woods, and R. Lewis (2001) Extreme diversity, conservation, and convergence of spider silk fibroin sequences. *Science*. 291: 2603-2605.

京都府産クモ類目録

吉田真 (立命館大学理工学部)

A Check List of the Spiders from Kyoto Prefecture, Japan

Makoto YOSHIDA

京都府のクモ相に関する研究は遅れており、1970年以前には3つの報告があるに過ぎない(大志茂, 1954; 西村, 1961; 小野, 1966)。このうち、大志茂(1954)と小野(1966)は比叡山のクモを調べたもので、そのリストには滋賀県のクモも含まれていると思われる。西村(1961)はおもに京都市伏見区で採集を行ったが、北桑田郡美山町・天田郡夜久野町・熊野郡久美浜町のクモも調べており、採集地がそのうちのいずれか分からない種もリストに載せられている。

1980年代に入って、京都府のクモ相はやや意識的に調べられるようになった(笹川・加村, 1983; 新海, 1993; 田中, 1994; 畑守, 1994; 八木沼ほか, 1981; 吉田, 1993, 1997, 1999, 2000)。これらの文献を中心に未発表のデータなども加えて291種の生息が確認できたので、ここに報告する。採集地は郡市のレベルで整理し、()内に番号によって文献などを示した。ただし、文献中の地名表示で郡市を特定できない場合には、比叡山(17)、京都府(16)のように記した。

調査に協力していただいた故・八木沼先生をはじめとする関西のクモ研究者の方々、標本の同定をお願いした斎藤博氏と林俊夫氏、標本の同定と和名から学名への変換をお願いした谷川明男氏に深く感謝する。

目録

Atypidae ジグモ科

1. *Atypus karschi* Donitz 1887 ジグモ
京都市 (28, 37, 15), 比叡山 (17)
2. *Calommata signata* Karsch 1879 ワスレナグモ
比叡山 (17), 京都市 (11)

Ctenizidae トタテグモ科

3. *Latouchia typica* (Kishida 1913) キシノウエトタテグモ
京都市 (19, 26), 京都市 (29)
4. *Ummidia fragaria* (Donitz 1887) キノボリトタテグモ
京都市 (19, 26, 19, 29), 京田辺市 (1)

Sicariidae イトグモ科

5. *Loxosceles rufescens* (Dufour 1820) イトグモ
京都市 (38)

Scytodidae ヤマシログモ科

6. *Scytodes striatipes* (L. Koch 1872) ヤマシログモ
比叡山 (17)
7. *Scytodes thoracica* (Latreille 1804) ユカタヤマシログモ
京都市 (38, 15), 比叡山 (17)
Pholcidae ユウレイグモ科
8. *Pholcus crypticolens* Bos. & Str. 1906 ユウレイグモ
京都市 (19, 28, 15), 比叡山 (16, 17)
9. *Pholcus phalangioides* (Fuesslin 1775) イエユウレイグモ
京都市(26), 京都府 (15), 比叡山 (17)
10. *Spermophora senoculata* (Duges 1836) シモングモ
京都市 (15)
Segestriidae エンماغモ科
11. *Ariadna insulicola* Yaginuma 1967 シマミヤグモ
舞鶴市 (18)
12. *Ariadna lateralis* (Karsch 1881) ミヤグモ
京田辺市 (1), 北桑田郡 (38), 京都市 (15), 比叡山 (17)
Mimetidae センショウグモ科
13. *Ero japonica* Bos. & Str. 1906 センショウグモ
京都市 (28, 37), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
14. *Mimetus japonicus* Uyemura 1938 ハラビロセンショウグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28)
15. *Mimetus testaceus* Yaginuma 1960 オオセンショウグモ
京都市 (15)
Oecobiidae チリグモ科
16. *Oecobius annulipes* Lucas 1846 チリグモ
京都市 (38)
17. *Uroctea compactilis* L. Koch 1878 ヒラタグモ
京田辺市 (1), 京都市 (19, 26, 29, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
Uloboridae ウズグモ科
18. *Hyptiotes affinis* Bos. & Str. 1906 オウギグモ
京田辺市 (1) 京都市 (29, 31)
19. *Miagrammopes orientalis* Bos. & Str. 1906 マネキグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (30), 京都市 (28, 36, 15), 比叡山 (17)
20. *Octonoba sybotides* (Bos. & Str. 1906) カタハリウズグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 15), 比叡山 (17)
21. *Octonoba varians* (Bos. & Str. 1906) ウズグモ
京都市(19, 26, 28, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
Theridiidae ヒメグモ科
22. *Achaearanea angulithorax* (Bos. & Str. 1906) ツリガネヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28)

23. *Achaearana culicivola* (Bos. & Str. 1906) カグヤヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28)
24. *Achaearana japonica* (Bos. & Str. 1906) ヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市(26, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
25. *Achaearana kompirensis* (Bos. & Str. 1906) コンピラヒメグモ
京都市 (28, 36), 京都府 (15)
26. *Achaearana tepidariorum* (C. Koch 1841) オオヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市(19, 26, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
27. *Anelosimus crassipes* (Bos. & Str. 1906) アシプトヒメグモ
京都市 (28, 36, 37), 北桑田郡 (2), 京都府 (15)
28. *Argyrodes bonadea* (Karsch 1881) シロカネイソウロウグモ
京田辺市 (1) 京都市(26, 36), 京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
29. *Argyrodes cylindrogaster* (Simon 1888) オナガグモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 28, 29, 36, 37), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
30. *Argyrodes fur* Bos. & Str. 1906 フタオイソウロウグモ
京田辺市 (1) 京都市(19, 26, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
31. *Argyrodes kumadai* Chida & Tanikawa 1999 チリイソウロウグモ
京田辺市 (1) 京都市(26, 28, 29, 37), 京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
32. *Argyrodes miniaceus* (Doleschall 1867) アカイソウロウグモ
京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
33. *Argyrodes nipponicus* Kumada 1990 ツノナガイソウロウグモ
京都市 (36)
34. *Argyrodes saganus* (Don. & Str. 1906) ヤリグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 36, 37), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
35. *Chrosiothes sudabides* (Bos. & Str. 1906) ヨツコブヒメグモ
京都市 (28)
36. *Chrysso argyrodiformis* (Yaginuma 1952) オダカグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28)
37. *Chrysso punctifera* (Yaginuma 1960) ホシミドリヒメグモ
京都市 (36)
38. *Chrysso rapulum* (Yaginuma 1960) ギボシヒメグモ
京都市 (15), 比叡山 (17)
39. *Chrysso venusta* (Yaginuma 1957) コガネヒメグモ
京都市 (36)
40. *Coleosoma octomaculatum* (Bos. & Str. 1906) ヤホシサヤヒメグモ
京田辺市 (1), 京都府 (15)
41. *Dipoena castrata* Bos. & Str. 1906 ボカシミジングモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 15)
42. *Dipoena flavomarginata* Bos. & Str. 1906 キベリミジングモ

京都市 (28)

43. *Diploena mustelina* (Simon 1888) カニミジンゴモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 28, 29, 36), 京都府 (15)
44. *Diploena punctisparsa* Yaginuma 1967 シモフリミジンゴモ
京田辺市 (1), 京都市 (28)
45. *Enoplognatha transversifoveata* (Bos. & Str. 1906) カレハヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 28, 36, 15), 比叡山 (16, 17)
46. *Episinus affinis* Bos. & Str. 1906 ヒシガタグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 36), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)
47. *Moneta caudifer* Don. & Str. 1906 ハラナガヒシガタグモ
京都市 (28), 北桑田郡 (2), 京都府 (15)
48. *Phoroncidia pilula* (Karsch 1879) ツクネグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (2)
49. *Steatoda cavernicola* (Bos. & Str. 1906) ハンゲツオスナキグモ
京都市 (28)
50. *Stemmops nipponicus* Yaginuma 1969 スネグロオチバヒメグモ
京田辺市 (1)
51. *Theridion chikunii* Yaginuma 1960 バラギヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 28, 36, 15), 比叡山 (17)
52. *Theridion latifolium* Yaginuma 1960 ヒロハヒメグモ
京都市 (19, 28), 京都府 (15)
53. *Theridion pinastri* L. Koch 1872 ムネグロヒメグモ
京都府 (15)
54. *Theridion sterninotatum* Bos. & Str. 1906 ムナボシヒメグモ
京都市 (19, 28, 36), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
55. *Theridion subadultum* Bos. & Str. 1906 コケヒメグモ
京都市 (19), 京都府 (15)
56. *Theridion subpallens* Bos. & Str. 1906 ハイイロヒメグモ
京都市 (36)
57. *Theridion takayense* S. Saito 1939 タカユヒメグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
58. *Theridion yunohamense* Bos. & Str. 1906 ユノハマヒメグモ
京都府 (15), 比叡山 (16, 17)

Theridiosomatidae カラカラグモ科

59. *Ogulnius pullus* Bos. & Str. 1906 ヤマジグモ
京田辺市 (1), 舞鶴市 (18), 京都市 (37)
60. *Theridiosoma epeiroides* Bos. & Str. 1906 カラカラグモ
京都府 (15), 比叡山 (17)

Anapidae ヨリメグモ科

61. *Conculus lyugadinus* Komatsu 1940 ヨリメグモ

京都市 (29, 37)

Linyphiidae サラグモ科

62. *Diplocephaloides saganus* (Bosenberg & Strand 1906) ハラジロムナキグモ
京都市 (36)
63. *Doenitzius peniculus* Oi 1960 デーニッツサラグモ
北桑田郡 (2)
64. *Erigone prominens* Bosenberg & Strand 1906 ノコギリヒザグモ
京都市 (36, 15)
65. *Floronia exomata* (L. Koch) ハナサラグモ
京田辺市 (1)
66. *Gnathonarium dentatum* (Wider 1834) ヤマアカムネグモ
京都市 (36)
67. *Gnathonarium exiccatum* (Bosenberg & Strand 1906) ニセアカムネグモ
京都市 (28, 15)
68. *Hylyphantes graminicola* (Sundevall 1830) クロナンキングモ
京都市 (36)
69. *Labulla contortipes* (Karsch 1881) アシヨレグモ
京都市 (19, 26, 28)
70. *Linyphia oidedicata* (Helsdingen 1969) ヘリジロサラグモ
京都市 (15)
71. *Nematogmus sanguinolentus* (Walckenaer 1837), チビアカサラグモ
京都市 (15)
72. *Neolinyphia fusca* (Oi 1960) クスミサラグモ
北桑田郡 (2, 30), 京都市 (28, 36, 37)
73. *Neolinyphia japonica* (Oi 1960) ツリサラグモ
京都市 (19, 28), 北桑田郡 (2)
74. *Neolinyphia nigripectoides* (Oi 1960) ムネグロサラグモ
京都市 (19, 28), 北桑田郡 (2)
75. *Neriere angulifera* (Schenkel 1953) ハンモックサラグモ
京都府 (15), 比叡山 (17)
76. *Neriere montata* (Clerck 1758), ヤマジサラグモ
比叡山 (16)
77. *Neriere oidedicata* (Helsdingen 1969) ヘリジロサラグモ
北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
78. *Neriere radiata* (Walckenaer 1841) シロブチサラグモ
京都市 (15), 比叡山 (17)
79. *Prolinyphia longipedella* (Bosenberg & Strand 1906) アシナガサラグモ
京都市 (28, 37, 15), 比叡山 (17)
80. *Pseudomicrargus latitegulatus* (Oi 1960) ヒロテゴマグモ
京都市 (36)

81. *Strandella quadrimacurata* (Uyemura 1937) ヨツボシサラグモ
京都市 (28), 北桑田郡 (2), 京都府 (15)
82. *Tmeticus japonicus* Oi 1960 ヌカグモ
北桑田郡 (30), 京都市 (36)
83. *Turinyphia yunohamensis* (Bosenberg & Strand 1906) ユノハマサラグモ
京都市 (19, 28, 36, 37), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
84. *Ummeliata angulitubera* (Oi 1960) コトガリアカムネグモ
京都市 (36)
85. *Ummeliata feminea* (Bosenberg & Strand 1906) アトグロアカムネグモ
京都市 (36)
86. *Ummeliata insecticeps* (Bosenberg & Strand 1906) セスジアカムネグモ
京都市 (29, 36), 京都府 (15), 比叡山 (17)
- Tetragnathidae アシナガグモ科
87. *Dyschiriognatha quadrimaculata* Bos. & Str. 1906 ヨツボシヒメアシナガグモ
京都市 (15)
88. *Dyschiriognatha tenera* (Karsch 1879) ヒメアシナガグモ
京都市 (15)
89. *Leucauge magnifica* Yaginuma 1954 オオシロカネグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (2, 30), 京都市 (28, 29, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
90. *Leucauge subblanda* Bos. & Str. 1906 コシロカネグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (30), 京都市 (28, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
91. *Leucauge subgemmea* Bos. & Str. 1906 キララシロカネグモ
京都市 (28, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
92. *Menosira ornata* Tikuni 1955 キンヨウグモ
京田辺市 (1)
93. *Metleucauge chikunii* Tanikawa 1992 チクニドヨウグモ
京都市 (37)
94. *Metleucauge kompirensis* (Bos. & Str. 1906) タニマノドヨウグモ
北桑田郡 (30), 京都市 (29, 36, 37), 京都府 (15), 比叡山 (17)
95. *Metleucauge yunohamensis* (Bos. & Str. 1906) メガネドヨウグモ
北桑田郡 (2), 京都市 (36, 37), 京都府 (15)
96. *Nephila clavata* L. Koch 1878 ジョロウグモ
京田辺市 (1) 京都市 (26, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
97. *Tetragnatha caudicula* (Karsch 1879) トガリアシナガグモ
京都市 (15)
98. *Tetragnatha maxillosa* Thorell 1895 ヤサガタアシナガグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (30), 京都市 (28, 32, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
99. *Tetragnatha praedonia* L. Koch 1878 アシナガグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (2, 30), 京都市 (26, 28, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
100. *Tetragnatha shinanoensis* Okuma & Chikuni 1978 シナノアシナガグモ

- 北桑田郡 (2), 京都市 (1)
101. *Tetragnatha squamata* Karsch 1879 ウロコアシナガグモ
北桑田郡 (2, 30), 京都市(26, 28, 36, 15), 比叡山 (17)
Araneidae コガネグモ科
102. *Acusilas coccineus* Simon 1895 ハツリグモ
京田辺市 (1), 京都市(26, 29, 15), 比叡山 (17)
103. *Arachnura logio* Yaginuma 1956 キジロオヒキグモ
京都市 (31, 38)
104. *Araneus abscissus* (Karsch 1879) キザハシオニグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28), 京都府 (15)
105. *Araneus cornutus* Clerck 1758 ナカムラオニグモ
京都市 (28, 36, 37)
106. *Araneus ejusmodi* (Bos. & Str. 1906) ヌサオニグモ
京都市 (28, 37), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)
107. *Araneus fuscocoloratus* (Bos. & Str. 1906) ヤミイロオニグモ
京都市 (28, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
108. *Araneus ishizawai* Kishida 1928 イシサワオニグモ
京都市 (28, 37), 京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
109. *Araneus macacus* Uyemura 1961 ヤエンオニグモ
京都市 (36)
110. *Araneus mitificus* (Simon 1886) ビジヨオニグモ
京都市 (38, 15), 比叡山 (17)
111. *Araneus pentagrammicus* (Karsch 1879) アオオニグモ
京都市 (19, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
112. *Araneus semilunaris* (Karsch 1879) マルツメオニグモ
京都市 (28), 京都府 (15), 比叡山 (17)
113. *Araneus uyemurai* Yaginuma 1960 ヤマオニグモ
京都市 (28, 36, 15), 比叡山 (17)
114. *Araneus ventricosus* (L. Koch 1878) オニグモ
北桑田郡 (2), 京都市 (37, 15), 比叡山 (16, 17)
115. *Araneus viperifer* Schenkel 1963 カラオニグモ
北桑田郡 (2)
116. *Araneus viridiventrif* Yaginuma 1969 ハラビロミドリオニグモ
北桑田郡 (2), 京都市 (38)
117. *Araneus* sp. ヤミイロオニグモ近似種
京都市 (37)
118. *Araneus* sp. マメオニグモ
京都府 (15)
119. *Araniella yaginumai* Tanikawa 1995 ムツボシオニグモ
北桑田郡 (2, 30), 京都市 (28, 36), 比叡山 (16, 17)

120. *Argiope amoena* L. Koch 1878 コガネグモ
京田辺市 (1), 京都市 (19, 28, 38, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
121. *Argiope boesenbergi* Levi 1983 チュウガタコガネグモ
京都市 (19, 28, 36, 37), 京都府 (15), 比叡山 (17)
122. *Argiope bruennichii* (Scopoli 1772) ナガコガネグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 29, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
123. *Argiope minuta* Karsch 1879 コガタコガネグモ
京田辺市 (1), 京都市 (28, 29, 36, 15), 比叡山 (17)
124. *Chorizopes nipponicus* Yaginuma 1963 ヤマトカナエグモ
京都市 (28), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16)
125. *Cyclosa argenteoalba* Bos. & Str. 1906 ギンメッキゴミグモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 26, 29, 37), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)
126. *Cyclosa atrata* Bos. & Str. 1906 カラスゴミグモ
京都市 (15), 比叡山 (16, 17)
127. *Cyclosa ginnaga* Yaginuma 1959 ギンナガゴミグモ
京都市 (38), 京都府 (15)
128. *Cyclosa laticauda* Bos. & Str. 1906 キジロゴミグモ
京都市 (19, 28, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16)
129. *Cyclosa monticola* Bos. & Str. 1906 ヤマゴミグモ
京都市 (19, 28)
130. *Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879 ゴミグモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
131. *Cyclosa omonaga* Tanikawa 1992 シマゴミグモ
京都府 (15)
132. *Cyclosa sedeculata* Karsch 1879 ヨツデゴミグモ
京都市 (19, 29, 36), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (16, 17)
133. *Cyclosa vallata* Keyserling 1886 マルゴミグモ
京都府 (15)
134. *Cyrtarachne bufo* (Bos. & Str. 1906) トリノフンダマシ
京都市 (28, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
135. *Cyrtarachne inaequalis* Thorell 1895 オオトリノフンダマシ
京都市 (28, 38), 比叡山 (16, 17)
136. *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand 1918 シロオビトリノフンダマシ
京都市 (28, 38, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
137. *Cyrtarachne nigra* Yaginuma 1960 クロトリノフンダマシ
京都市 (15)
138. *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand 1918 アカイロトリノフンダマシ
中郡 (38) 京都市 (37), 比叡山 (16, 17)
139. *Cyrtophora moluccensis* (Doleschall 1857) スズミグモ
京都市 (28), 京都府 (15)

140. *Eriovixia pseudocentrodes* (Bos. & Str. 1906) トガリオニグモ
京田辺市 (1), 京都市 (28, 36, 37), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)
141. *Gasteracantha kuhlii* C. Koch 1837 トゲグモ
京都市 (29), 与謝郡 (38), 京都府 (15), 比叡山 (17)
142. *Hypsosinga pygmaea* (Sundevall 1831) ヨツボシシヨウジョウグモ
京都市 (28)
143. *Larinia argiopiformis* Bos. & Str. 1906 コガネグモダマシ
京都市 (28, 36, 37, 15), 比叡山 (17)
144. *Neoscona adianta* (Walckenaer 1802) ドヨウオニグモ
京都市 (36, 38, 15)
145. *Neoscona mellottei* (Simon 1895) ワキグロサツマノミダマシ
京都市 (28, 29, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
146. *Neoscona nautica* (L. Koch 1875) イエオニグモ
京都市 (29, 15)
147. *Neoscona punctigera* (Doleschall 1857) コゲチャオニグモ
京都市 (37, 15), 比叡山 (17)
148. *Neoscona scylla* (Karsch 1879) ヤマシロオニグモ
京都市 (19, 28, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (16, 17)
149. *Neoscona scylloides* (Bos. & Str. 1906) サツマノミダマシ
京都市 (28, 37, 15), 比叡山 (17)
150. *Ordgarius sexspinus* (Thorell 1894) ムツトゲイセキグモ
加佐郡 (33), 宮津市 (33), 中郡 (33, 34), 京都市 (37)
151. *Poltys illepidus* C. Koch 1843 ゲホウグモ
京都市 (28)
152. *Pronous minutus* (S. Saito 1939) コオニグモモドキ
京都府 (15)
153. *Yaginumia sia* (Strand 1906) ズグロオニグモ
京都市 (26), 北桑田郡 (2), 京都府 (15)
154. *Zilla astridae* (Strand 1917) サガオニグモ
京田辺市 (1) 京都市 (19, 29, 36), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)
155. *Zilla sachalinensis* (S. Saito 1934) カラフトオニグモ
京都市 (19, 28, 36), 北桑田郡 (2), 京都府 (15)
- Lycosidae コモリグモ科
156. *Arctosa depectinata* (Bos. & Str. 1906) カガリビコモリグモ
熊野郡 (27)
157. *Arctosa ebicha* Yaginuma 1960 エビチャコモリグモ
京田辺市 (1), 八幡市 (23)
158. *Arctosa japonica* (Simon 1888) ヒノマルコモリグモ
京都市 (29)
159. *Arctosa kawabe* Tanaka 1985 カワベコモリグモ

京都市 (23)

160. *Lycosa coelestis* L. Koch 1878, ハラクロコモリグモ

京都市 (15)

161. *Lycosa ishikariana* (S. Saito 1934) イソコモリグモ

竹野郡 (27)

162. *Pardosa agraria* Tanaka 1985 イナダハリゲコモリグモ

京都市 (24)

163. *Pardosa astrigera* L. Koch 1878 ウツキコモリグモ

京田辺市 (1) 京都市 (28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)

164. *Pardosa brevivulva* Tanaka 1975 ヤマハリゲコモリグモ

京都市 (28, 29)

165. *Pardosa laura* Karsch 1879 ハリゲコモリグモ

京都市 (24, 28, 29, 15), 北桑田郡 (2)

166. *Pardosa pseudoannulata* (Bos. & Str. 1906) キクツキコモリグモ

京都市 (28, 29, 15), 比叡山 (17)

167. *Pardosa yaginumai* Tanaka 1977 キシベコモリグモ

京都市 (21), 相楽郡 (21), 北桑田郡 (21)

168. *Pirata clercki* (Bos. & Str. 1906) クラークコモリグモ

京都市 (22)

169. *Pirata meridionalis* Tanaka 1974 ミナミコモリグモ

京都市 (22, 31)

170. *Pirata piraticus* (Clerck 1758) カイゾクコモリグモ

京都市 (15)

171. *Pirata piratoides* (Bos. & Str. 1906) イモコモリグモ

京都市 (22)

172. *Pirata procurvus* (Bos. & Str. 1906) チビコモリグモ

京田辺市 (1) 京都市 (22, 29), 比叡山 (17)

173. *Pirata subpiraticus* (Bos. & Str. 1906) キバラコモリグモ

京都市 (20, 22, 28, 29)

174. *Pirata tanakai* Brignoli 1983 コガタコモリグモ

福知山市 (27)

175. *Pirata yaginumai* Tanaka 1974 ナミコモリグモ

京都市 (20, 22)

Pisauridae キシダグモ科

176. *Dolomedes pallitarsis* Don. & Str. 1906 スジプトハシリグモ

京田辺市 (1) 京都市 (36), 京都府 (15), 比叡山 (17)

177. *Dolomedes raptor* Bos. & Str. 1906 アオグロハシリグモ

京都市 (36, 37)

178. *Dolomedes saganus* Bos. & Str. 1906 スジアカハシリグモ

京都市 (28, 29), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)

179. *Dolomedes sulfureus* L. Koch 1878 イオウイロハシリグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山
(17)
180. *Pisaura lama* Bos. & Str. 1906 アズマキシダグモ
京都市(26, 29, 37, 15), 北桑田郡 (2)
Oxyopidae ササグモ科
181. *Oxyopes badius* Yaginuma 1967 クリチャササグモ
京都市 (38)
182. *Oxyopes sertatus* L. Koch 1878 ササグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 29, 36, 15), 比叡山 (17)
Ctenidae シボグモ科
183. *Anahita fauna* Karsch 1879 シボグモ
京都市 (28, 29, 15), 北桑田郡 (2)
Agelenidae タナグモ科
184. *Agelena limbata* Thorell 1879 クサグモ
京田辺市 (1), 京都市 (19, 28, 36, 37, 15), 比叡山 (16, 17)
185. *Agelena opulenta* L. Koch 1878 コクサグモ
京田辺市 (1), 北桑田郡 (30), 京都市(19, 26, 28, 29, 36, 37, 15), 比叡山 (16,
17)
186. *Tegenaria domestica* (Clerck 1758) イエタナグモ
比叡山 (17)
Cybaeidae ナミハグモ科
187. *Argyroneta aquatica* (Clerck 1758) ミズグモ
京都市 (13, 14, 28)
Desidae ウシオグモ科
188. *Badumna insignis* (L.Koch 1872) クロガケジグモ
京都市(26, 31)
Hahniidae ハタケグモ科
189. *Hahnia corticicola* Bos. & Str. 1906 ハタケグモ
京都市 (15)
Dictynidae ハグモ科
190. *Dictyna arundinacea* (Linnaeus 1758) アシハグモ
京都市 (28)
191. *Dictyna felis* Bos. & Str. 1906 ネコハグモ
京都市(26, 29, 15)
192. *Dictyna foliicola* Bos. & Str. 1906 ヒナハグモ
京都市 (15), 比叡山 (17)
193. *Lathys humilis* (Blackwall 1855) カレハグモ
京都市 (15), 比叡山 (17)
Amaurobiidae ガケジグモ科

194. *Coelotes antri* (Komatsu 1961) ホラズミヤチグモ
京都市 (19), 北桑田郡 (2)
195. *Coelotes corasides* (Bos. & Str. 1906) ヤマヤチグモ
京都市 (29, 36)
196. *Coelotes decolor* Nishikawa 1973 ウスイロヤチグモ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (2)
197. *Coelotes exitialis* L. Koch 1878 ヤチグモ
北桑田郡 (2), 京都市 (29)
198. *Coelotes insidiosus* L. Koch 1878 シモフリヤチグモ
京都市 (15)
199. *Coelotes interunus* Nishikawa 1977 ヒメシモフリヤチグモ
京都市 (29), 北桑田郡 (2)
200. *Coelotes luctuosus* L. Koch 1878 メガネヤチグモ
京都市 (38, 15)
201. *Coelotes personatus* Nishikawa 1973 カメンヤチグモ
京都市 (29), 北桑田郡 (2)
202. *Coelotes ginumai* Nishikawa 1972 カミガタヤチグモ
京田辺市 (1) 京都市 (29), 北桑田郡 (2)

Anyphaenidae イツツグモ科

203. *Anyphaena pugil* Karsch 1879 イツツグモ
京都市 (19, 36), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)

Liocranidae ウエムラグモ科

204. *Itatsina praticola* (Bos. & Str. 1906) イタチグモ
京都市 (28, 29, 15)
205. *Phrurolithus komurai* Yaginuma 1952 コムラウラシマグモ
京田辺市 (1) 京都市 (29), 北桑田郡 (2)
206. *Phrurolithus nipponicus* Kishida 1914 ウラシマグモ
京都市 (15)

Clubionidae フクログモ科

207. *Cheiracanthium eutittha* Bos. & Str. 1906 アシナガコマチグモ
京都市 (28)
208. *Cheiracanthium japonicum* (Bos. & Str. 1906) カバキコマチグモ
京都市 (37, 15), 比叡山 (17)
209. *Cheiracanthium lascivum* Karsch 1879 ヤマトコマチグモ
京都市 (28)
210. *Clubiona japonicola* Bos. & Str. 1906 ハマキフクログモ
京都市 (28), 京都府 (15), 比叡山 (17)
211. *Clubiona jucunda* (Karsch 1879) ヤハズフクログモ
北桑田郡 (2), 京都市 (37, 15), 比叡山 (17)
212. *Clubiona kurilensis* Bos. & Str. 1906 ヒメフクログモ

京都市 (36)

213. *Clubiona lena* Bos. & Str. 1906 トビイロフクログモ

京都市 (28, 15)

214. *Clubiona uenoi* Ono 1986 ウエノフクログモ

京都市 (36)

215. *Clubiona vigil* Karsch 1879 ムナアカフクログモ

京都市 (28, 37, 15)

Corinnidae ネコグモ科

216. *Trachelas japonicus* Bos. & Str. 1906 ネコグモ

京都市 (28, 36, 15), 北桑田郡 (2)

Zodariidae ホウシグモ科

217. *Asceua japonica* (Bos. & Str. 1906) ドウシグモ

舞鶴市 (18)

Trochanteriidae ヒトエグモ科

218. *Plator nipponicus* (Kishida 1914) ヒトエグモ

京都府 (15), 京都市 (35)

Gnaphosidae ワシグモ科

219. *Callilepis schuszteri* (Herman 1879) フタホシテオノグモ

京都市 (4), 加佐郡 (4), 綴喜郡 (4), 相楽郡 (4)

220. *Cladothela oculinotata* (Bos. & Str. 1906) チャクロワシグモ

京都府 (15)

221. *Cladothela parva* Kamura 1991 ヒメチャワシグモ

京都市 (10)

222. *Drassyllus sanmenensis* Platnick & Song 1986 エビチャヨリメケムリグモ

北桑田郡 (6), 京都市 (6), 綴喜郡 (6), 相楽郡 (6)

223. *Drassyllus sasakawai* Kamura 1987 ヤマヨリメケムリグモ

北桑田郡 (6), 与謝郡 (6), 京都市 (6), 宮津市 (6)

224. *Drassodes serratidens* Schenkel 1963 トラフワシグモ

京都市 (15)

225. *Drassyllus yaginumai* Kamura 1987 ヒメヨリメケムリグモ

京都市 (6)

226. *Gnaphosa kamurai* Ovtsharenko Platnick & Song 1992 カワラメキリグモ

北桑田郡 (8)

227. *Gnaphosa kompirensis* Bos. & Str. 1906 メキリグモ

京都市 (8), 宮津市 (8), 八幡市 (8), 比叡山 (17)

228. *Gnaphosa potanini* Simon 1895 モリメキリグモ

京都市 (8), 宮津市 (8), 相楽郡 (8)

229. *Herpyllus anatolicus* Kamura 1989 ナミトンビグモ

相楽郡 (9)

230. *Hitobia unifascigera* (Bos. & Str. 1906) ヒトオビトンビグモ

- 舞鶴市 (2, 12), 京都市 (3, 12, 28), 八幡市 (12)
231. *Odontodrassus hondoensis* (S. Saito 1939) ヤマトフトバワシグモ
北桑田郡 (7), 京都市 (7), 相楽郡 (7)
232. *Poecilochloa albimaculata* (S. Saito 1934) ヨツボシワシグモ
宮津市 (4), 京都府 (15)
233. *Sergiulus hosiziro* (Yaginuma 1960) ホシジロトンビグモ
京都市 (4)
234. *Sernokorba pallidipatellis* (Bos. & Str. 1906) マエトビケムリグモ
京都市 (12, 28), 宮津市 (12), 北桑田郡 (12), 船井郡 (12), 綴喜郡 (12), 相
楽郡 (12)
235. *Zelotes asiaticus* (Bos. & Str. 1906) クロチャケムリグモ
京都市 (29), 船井郡 (3), 北桑田郡 (3), 京都府 (15)
236. *Zelotes tortuosus* Kamura 1987 クロケムリグモ
京都市 (5), 宮津市 (5), 八幡市 (5), 綴喜郡 (5)
- Selenopidae アワセグモ科
237. *Selenops bursarius* Karsch 1879 アワセグモ
京都市 (19)
- Sparassidae アシダカグモ科
238. *Heteropoda venatoria* (Linnaeus 1758) アシダカグモ
京都市 (38, 15), 比叡山 (17)
239. *Sinopoda forcipata* (Karsch 1881) コアシダカグモ
京田辺市 (1), 京都市 (19, 28, 29, 37), 北桑田郡 (1), 京都府 (15), 比叡山
(17)
240. *Thectocoris severa* (L. Koch 1875) カマスグモ
京都市 (38), 比叡山 (17)
- Philodromidae エビグモ科
241. *Philodromus aureolus* (Clerck) コガネエビグモ
京田辺市 (1)
242. *Philodromus auricomus* L. Koch 1878 キンイロエビグモ
北桑田郡 (1, 30), 京都市 (36, 15)
243. *Philodromus flavidus* S. Saito 1934 キエビグモ
北桑田郡 (2)
244. *Philodromus spinatarsis* Simon 1895 キハダエビグモ
京都市 (26, 15), 比叡山 (17)
245. *Philodromus subaureolus* Bos. & Str. 1906 アサヒエビグモ
京都市 (28, 36, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
246. *Thanatus miniaceus* Simon 1880 ヤドカリグモ
京都市 (28)
247. *Tibellus tenellus* (L. Koch 1876) シャコグモ
京都市 (28, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)

Thomisidae カニグモ科

248. *Bassaniana decorata* (Karsch 1879) キハダカニグモ
京都市 (19, 26, 28, 15), 比叡山 (17)
249. *Coriarachne fulvipes* (Karsch 1879) コカニグモ
比叡山 (17)
250. *Diaea subdola* O. P.-Cambridge 1885 コハナグモ
京都市 (28, 36, 37), 北桑田郡 (2)
251. *Heriaeus mellottei* Simon 1886, アシナガカニグモ
比叡山 (17)
252. *Lysiteles coronatus* (Grube 1861) アマギエビスグモ
北桑田郡 (2), 京都市 (36, 37)
253. *Misumenops tricuspидatus* (Fabricius 1775) ハナグモ
京都市 (19, 28, 29, 36, 37, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
254. *Oxytate striatipes* L. Koch 1878 ワカバグモ
京田辺市 (1), 京都市 (19, 28, 36, 37), 北桑田郡 (2, 30), 京都府 (15), 比叡山 (17)
255. *Phrynarachne katoi* Tikuni 1955 カトウツケオグモ
京都市 (38), 舞鶴市 (38)
256. *Pistius undulatus* Karsch 1879 ガザミグモ
比叡山 (17)
257. *Synema globosum* (Fabricius 1775) フノジグモ
京都府 (15), 比叡山 (17)
258. *Thomisus labefactus* Karsch 1881 アズチグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 15), 比叡山 (17)
259. *Tmarus piger* (Walckenaer 1802) トラフカニグモ
京都市 (29, 36), 北桑田郡 (2), 京都府 (15), 比叡山 (17)
260. *Tmarus rimosus* Paik 1973 セマルトラフカニグモ
京都市 (28, 36)
261. *Xysticus croceus* Fox 1937 ヤミイロカニグモ
京田辺市 (1), 京都市 (28, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
262. *Xysticus saganus* Bos. & Str. 1906 オオヤミイロカニグモ
京都市 (28, 36)

Salticidae ハエトリグモ科

263. *Aelurillus festivus* (L. Koch 1834) ヤマジハエトリ
京都市 (28), 北桑田郡 (2)
264. *Carrhotus xanthogramma* (Latreille 1819) ネコハエトリ
京都市 (19, 28, 36, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
265. *Evarcha albaria* (L. Koch 1878) マミジロハエトリ
京田辺市 (1), 京都市 (36, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
266. *Evarcha crassipes* (Karsch 1881) アシプトハエトリ

- 京都市(26, 28, 29)
267. *Evarcha fasciata* Seo 1992 マミクロハエトリ
京都市 (36)
268. *Harmochirus insulanus* (Kishida 1914) ウデプトハエトリ
京田辺市 (1) 京都市 (29), 京都府 (15), 比叡山 (17)
269. *Hasarius adansoni* (Audouin 1897) アダンソンハエトリ
比叡山 (17)
270. *Laufeia aenea* Simon 1888 エキスハエトリ
京都府 (15)
271. *Marpissa dybowskii* (Kulczynski 1895) オオハエトリ
北桑田郡 (2)
272. *Marpissa pulla* (Karsch 1879) ヨダンハエトリ
京都市 (28, 15), 比叡山 (17)
273. *Mendosa canestrinii* (Ninni in Canestrini & Pavesi 1868) オスクロハエトリ
京都市 (28, 36), 比叡山 (17)
274. *Mendosa elongata* (Karsch 1879) ヤハズハエトリ
京都市 (28, 37), 京都府 (15), 比叡山 (17)
275. *Menemerus fulvus* (L. Koch 1878) シラヒゲハエトリ
京都市 (38, 37), 比叡山 (17)
276. *Myrmarachne inermichelis* Bos. & Str. 1906 ヤサアリグモ
京都市 (28, 36, 15)
277. *Myrmarachne japonica* (Karsch 1879) アリグモ
京田辺市 (1) 京都市 (28, 15), 北桑田郡 (2), 比叡山 (17)
278. *Phintella abnormis* (Bos. & Str. 1906) チャイロアサヒハエトリ
京都市 (28), 京都府 (15)
279. *Phintella arenicolor* (Grube 1861) マガネアサヒハエトリ
京都市 (28, 36, 15), 北桑田郡 (2)
280. *Phintella bifurcilinea* (Bos. & Str. 1906) キアシハエトリ
京都市 (28)
281. *Phintella linea* (Karsch 1879) メガネアサヒハエトリ
京都市 (28, 15)
282. *Phintella versicolor* (C. Koch 1846) メスジロハエトリ
京都市 (28), 比叡山 (17)
283. *Plexippoides annulipedis* (S. Saito 1939) マダラスジハエトリ
京都市 (37)
284. *Plexippoides doentzi* (Karsch 1879) デーニッツハエトリ
京田辺市 (1) 北桑田郡 (2), 京都市 (36, 37), 京都府 (15), 比叡山 (17)
285. *Plexippus paykulli* (Audouin 1827) チャスジハエトリ
京都市 (38, 15), 比叡山 (17)
286. *Plexippus setipes* Karsch 1879 ミスジハエトリ

- 京都市(26, 15), 比叡山 (17)
287. *Pseudicius vulpes* (Grube 1861) イナズマハエトリ
京都市 (28, 15), 比叡山 (17)
288. *Rhene atrata* (Karsch 1881) カラスハエトリ
京都市 (28, 37, 15), 比叡山 (17)
289. *Siler cupreus* Simon 1888 アオオビハエトリ
京都市 (28, 29, 15), 比叡山 (17)
290. *Yaginumaella striatipes* (Grube 1861) ウススジハエトリ
北桑田郡 (2)
291. *Yaginumanis sexdentatus* Yaginuma 1967 ムツバハエトリ
北桑田郡 (2)

引用文献

1. 畑守有紀. 1994. 京都府田辺町・里山の秋のクモ. くものいと, (16) : 12-14.
2. 加村隆英. 1984. 京都北山 (特に芦生地方) のクモ及びシナノアシナガグモ採集記録. くものいと, (3): 4-6.
3. 加村隆英. 1984. 日本のワシグモ類 (I) . *Atypus*, (85): 1-8.
4. 加村隆英. 1986. 日本のワシグモ類 (II) . *Atypus*, (87): 9-20.
5. Kamura, T. 1987. Two new species of the genus *Zelotes* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Akitu, N. Ser.*, (85): 1-7.
6. Kamura, T. 1987. Three species of the genus *Drassyllus* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 35: 77-88.
7. Kamura, T. 1987. Redescription of *Odontodrassus hondoensis* (Araneae: Gnaphosidae). *Proc. Japn. Soc. Syst. Zool.*, (36): 29-33.
8. Kamura, T., 1988. A revision of the genus *Gnaphosa* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Akitu, N. Ser.*, (97): 1-14.
9. Kamura, T., 1989. A new species of the genus *Herpyllus* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Arachnol. Pap. pres. Yaginuma, Osaka*, pp. 111-115.
10. Kamura, T., 1991. A revision of the genus *Cladothela* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 40: 47-60.
11. 加村隆英. 1991. ワスレナグモは湿原にもいる. くものいと, (9) : 6-7.
12. Kamura, T., 1992. Two new genera of the family Gnaphosidae (Araneae) from Japan. *Acta arachnol.*, 41: 119-132.
13. 加村隆英. 1992. 深泥池のミズグモ——その後. くものいと, (10) : 1-2.
14. 西川喜明. 1993. 深泥池のミズグモ発見記. くものいと, (13) : 1-3.
15. 西村太郎. 1961. 京都府蜘蛛目録の一試料. *Atypus*, (22) : 10-16.
16. 大志茂善平. 1954. 比叡山のクモ. *Atypus*, (7) : 8.
17. 小野武比古. 1966. 比叡山のクモ. *Atypus*, (41/42) : 60-63.
18. 笹川満廣・加村隆英, 1983. 真正クモ類. 冠島動植物調査報告書, (株) 関西

総合環境センター, pp. 31-33.

19. 新海明. 1993. 洛北鷲森神社のクモ類 (1). くものいと, (12) : 1-3.
20. Tanaka, H. 1974. Japanese wolf spiders of the genus *Pirata*, with descriptions of five new species (Araneae: Lycosidae). *Acta arachnol.*, 26: 22-45.
21. 田中穂積. 1977. 日本産オオアシコモリグモ属 2 新種の記載. *Acta arachnol.*, 27 (special number): 51-59.
22. Tanaka, H. 1988. Lycosid spiders of Japan. I. The genus *Pirata* Sundevall. *Acta arachnol.*, 36: 33-77.
23. Tanaka, H. 1991. Lycosid spiders of Japan. VII. The genus *Arctosa*. C. L. Koch 園田学園女子大学論文集, 25: 289-316.
24. Tanaka, H. 1993. Lycosid spiders of Japan. IX. The genus *Pardosa* C. L. Koch. 園田学園女子大学論文集, 27: 261-318.
25. Tanaka, H. 1993. Lycosid spiders of Japan. X. The genus *Pardosa* C. L. Koch - *monticola*-group. *Bull. Biogeograph. Soc. Japan*, 48: 9-16.
26. 田中穂積. 1994. 糺の森 (下鴨神社) 採集記. くものいと, (16) : 15-17.
27. 田中穂積. 1999. コモリグモ科標本のデータの追加 (リスト). *Kishidaia*, (77) : 119-124.
28. 八木沼健夫・吉田真・加村隆英. 1981. 深泥池とその周辺の真正蜘蛛類. 深泥池の自然と人 (深泥池学術調査報告書京都市文化観光局), 238-244.
29. 吉田真. 1993. 二軒茶屋はクモの宝庫—第 1 回市民向けクモ観察会報告. くものいと, (12) : 20-22.
30. 吉田真. 1995. 川の中州に生息するクモ類. くものいと, (17) : 4-7.
31. 吉田真. 1997. 航平君お手柄キジロオヒキグモをゲット. 深泥池ニュース, (35) : 10.
32. 吉田真. 1997. 二軒茶屋の観察会で確認されたクモ. くものいと, (23) : 20.
33. 吉田真. 1997. ムツトゲイセキグモの採集記録. くものいと, (23) : 15.
34. 吉田真. 1997. 西川忠樹さんへの手紙. くものいと, (23) : 12.
35. 吉田真. 1999. ヒトエグモ (*Plator nipponicus*) についての覚え書き. くものいと, (26) : 17-22.
36. 吉田真. 1999. 京都・静原のクモ. くものいと, (27) : 29-32.
37. 吉田真. 2001. 大原と修学院のクモ. くものいと, (29) : 22-25.
38. 吉田真.. 2000. 京都府のクモ類 (2). くものいと, (27) : 19-28.

寄稿

姫路にもいたクロガケジグモ

船曳和代

2001年5月12日の夕方、私は増位山から下ってきた白国の交差点で信号待ちをしていた。増位山へは寄生蜂に寄生されたゴミグモを採集にいったのである。あいにくゴミグモは少なく寄生されたクモも見つからず軽い疲労感をおぼえていた。

ぼんやりと右前方に目をやっていた。先には針金で作られたフェンスが続いていた。そして、その上には無数のクモの網が並んでいた。

円網ではない、ボロあみである。住居から張り出された糸は、一頭一頭のクモの勢力さながら大小様々の陣地を確保していた。そしてそれらの網は折からの西日を受けて白く光って浮かび上がり、まるでクモ国の地図を見るように続いていた。

フェンスにボロ網を張るクモはネコハグモが考えられた。自宅付近では最近数が減っているようで寂しく感じていたが、ここにはこんなにいるのかしら。でも少し大きすぎる。カレハヒメグモ？ いや、数が多すぎる。私は頭の中で忙しくクモの名前と網を思い出していた。その内車は進んだがもう一度手前で待たされた。フェンスは長く続いており、網も続いていた。

次の青信号で右折し、確かめるために道路端に車を停めた。曲がった後、フェンスの前は小川が流れておりそこには直接は近づけなかった。しかし小川に沿って歩道がつけられており、小川と歩道の間は1メートル位のフェンスで仕切られていた。そしてここにも同じような網が所狭しと張られていた。

ボロ網の格子は大きく間近で見るとクロガケジグモの網だと直感した。クモは隙間に潜り込んでしまいなかなか採れない。そばの電柱にも同じ網があり、住居と思われる部分を棒でつついたり、指を入れたりしてやっと一頭採集した。黒い毛に覆われたまるまるとした個体で1回はあるようだ。昨年奈良の採集会で見たのと同じものである。

もう一頭採集したい。フェンスに沿って往きつ戻りつしてしていると網の上にムギワラトンボがいた。トンボは羽化して間もないのか羽や体の色がうすい。じっとしているので死んでいるのかと羽を引っ張ると足をもがいて動いた。網にかかっているのだ。生きているのだ。なおも引っ張ると胸のあたりに黒いクモが食いついていた。クロガケジグモだ。そろそろと引っぱり出して採集した。自分より何十倍も大きな獲物に食いついて離れないところに、オーストラリアから帰化したこのクモの逞しさを見るおもいであった。

これまで姫路でクロガケジグモを見たことがなかったので、こんなにたくさん繁殖していたのにはおどろいた。ちなみにフェンスに囲まれた内側は自衛隊の姫路駐屯地である。道を挟んで向かい側には姫路競馬場がある。

帰宅して自宅周辺にもいないか公園のフェンスを中心に調べたがいなかった。

ところがそれから一週間して姫路の少し北にある林田町に行く機会があった。板で

おおわれた古い家の壁や庇の間には多数のクロガケジグモが住み着いていた。

また、私の会社近くフェンスにも数は少ないもののいた。ここは姫路駅のすぐ近くである。3年前にこの場所に転勤してきて調べたときにはいなかった。いるかもしれないと思って探すのと、いないだろうとの先入観を持って探すのでは結果に大きく影響するのかもしれない。

ここ2～3年の間に住み着いたのか、もう何年も前からいたのか、とにかく姫路にクロガケジグモはいた。

寄稿

水平円網を張るクモ 6種の生態的分布

吉田 真

アシナガグモ科の多くの種は水平円網を張り、そのうちのいくつかの種は河川や湖沼の水面上に造網する(新海・高野 1984, 1987; 八木沼 1986; 吉田 1974, 1977; Yoshida 1981, 1989, 2000)。北海道大学苫小牧演習林の中を流れる幌内川で調査したところでは、森林の中を流れる上流部にはアシナガグモとヤサガタアシナガグモが、苫小牧の市街を流れる下流部にはハラビロアシナガグモが分布しており、上流部では水面のすぐ上にヤサガタアシナガグモが、水面からかなり離れた高さにアシナガグモが造網する傾向があった(Yoshida 1981)。川に沿った生態的分布の違いや造網場所の高さの違いは、各種の生息場所の好みだけでなく種間競争の回避によってもたらされるのかもしれない(吉田 1977; Yoshida 1981)。本州以南ではこのような調査はなされていないので、今回は京都市北部を流れる加茂川とその周辺で、水平円網を張るクモ各種の分布を調べた。その結果をここに報告し、各種の生息場所選択と種間の関係について論議する。

方法

調査は1982年5月に、京都市北部を流れる加茂川とその支流および水田の間を流れる水路で行われた。加茂川の川幅は調査地付近では20mほどだが、堰堤でせき止められたダムは40mほどであった。加茂川はこの付近では、標高100mから120mほどの地域を北から南に流れていた。加茂川の支流である桧谷川と蛙谷川は西南から北東または東に流れ、加茂川に注いでいた。桧谷川と蛙谷川は山の間を流れる溪流であり、平地に出て水田の間を流れ加茂川に注いでいた。桧谷川の両岸には落葉樹の二次林とスギ・ヒノキの植林地が混在しており、ネジキなどの灌木やアカソ・イタドリなどの草本植物も繁茂する比較的明るい山間溪流であった。これに対して蛙谷川はおもにスギの植林地の間を流れ、昼でも薄暗い場所が多かった。加茂川と山地の間の狭い地域には水田があり、住宅が点在していた。水田に水を引くために、桧谷川や蛙谷川から引いたと思われる水路や、加茂川から引いた水路が水田の間に張り巡らされていた(図1)。

それぞれの地点で川岸や川の上の灌木や草本植物を、直径50cmの捕虫網で25回スイープし、網に入ったクモの種と個体数を調べた。

結果

オオシロカネグモとタニマノドヨウグモは、そのほとんどが桧谷川とその支流および蛙谷川に分布していた。これに対してアシナガグモとヤサガタアシナガグモは、加茂川と水路に多かったが、桧谷川や蛙谷川にも生息していた。ウロコアシナガグモは加茂川などで、コシロカネグモは桧谷川の支流などで、少数採集されたに過ぎない。

少し詳しく見ると、オオシロカネグモが桧谷川（の本流）とその支流の双方に分布するのに対して、タニマノドヨウグモは支流ではほとんど採集されなかった。またヤサガタアシナガグモが蛙谷川の下流や加茂川から引いた水路（図1左下）に多かったのに対して、アシナガグモは加茂川に注ぐ水路や終野ダムの河川敷に多かった。このほかに、桧谷川からやや離れた場所（*で示す）で、オオシロカネグモ、コシロカネグモ、ウロコアシナガグモを少数採集した。種の組み合わせからみると、加茂川と水路にはアシナガグモまたはヤサガタアシナガグモのどちらかが生息している場所と、両種が共存している場所があった。これに対して桧谷川では、オオシロカネグモとタニマノドヨウグモが共存している場所が多く、アシナガグモやヤサガタアシナガグモも含め、3種ないし4種が共存する場所も多かった（図1）。

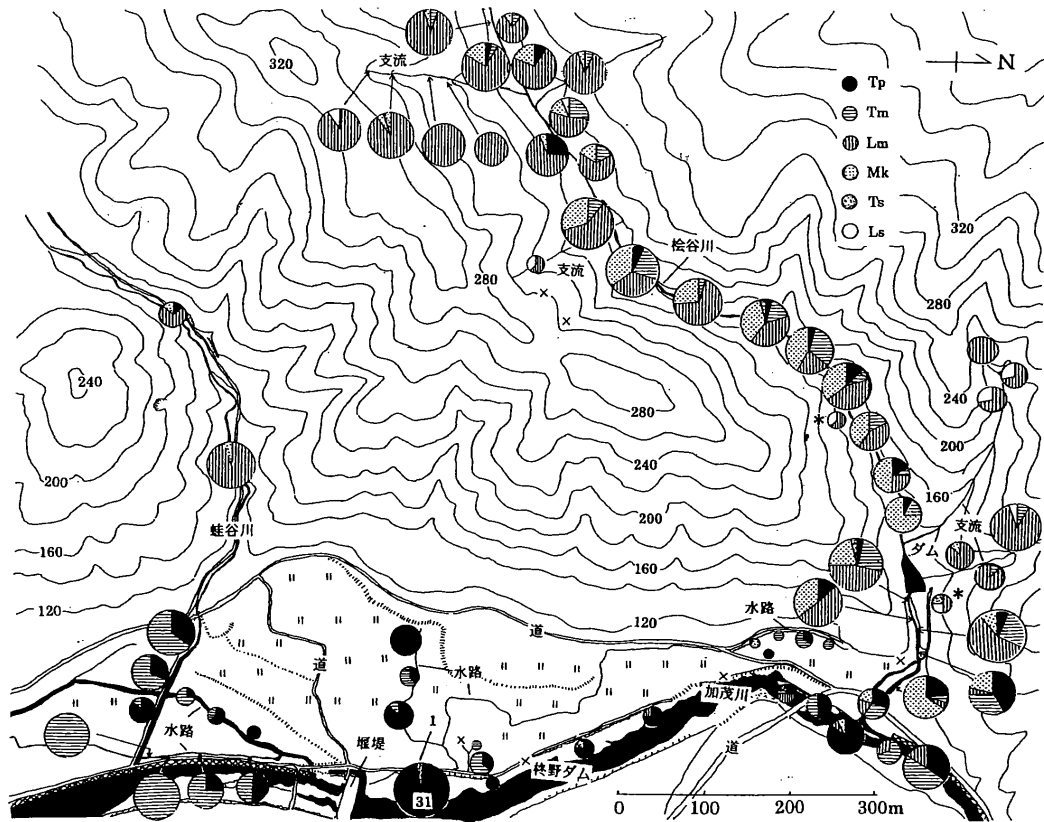


図1 アシナガグモ科6種の分布。等高線の数字は標高（海拔m）を、黒い部分は川の水表面を示す。Tp：アシナガグモ、Tm：ヤサガタアシナガグモ、Lm：オオシロカネグモ、Mk：タニマノドヨウグモ、Ts：ウロコアシナガグモ、Ls：コシロカネグモ。円の大きさは個体数を示す（図の下方、堰堤の右側に例示。ここではアシナガグモ（Tp）31匹とウロコアシナガグモ（Ts）1匹が採集された）。×はどの種も採集されなかったことを、*は川から離れた場所での採集を示す。

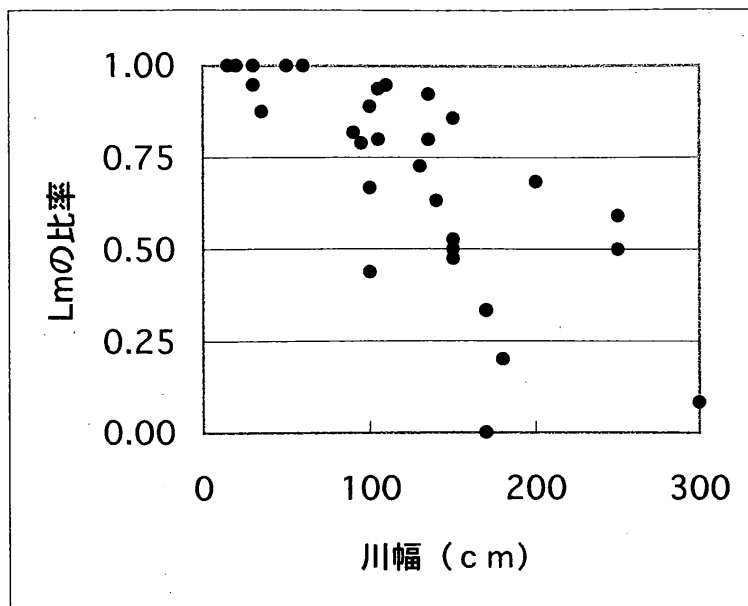


図2 川幅とLm比率との関係。Lm比率は、Lm（オオシロカネグモ）とMk（タニマノドヨウグモ）の合計に対するLmの比である。

図2は、桧谷川とその支流における川幅とオオシロカネグモの出現頻度（オオシロカネグモとタニマノドヨウグモの個体数の合計に対する前者の比率）を示したものである。川幅が狭い場所ではオオシロカネグモだけが採集された場合も多く、川幅とオオシロカネグモの出現頻度には有意の負の相関があった（ $N=34$, $r=-0.77$, $p<0.01$ ）。これは、川幅が狭いほどオオシロカネグモが、川幅が広いほどタニマノドヨウグモが、相対的に多いことを意味している。ただし、オオシロカネグモとタニマノドヨウグモの個体数の間には有意な相関はなかった（ $N=34$, $r=-0.08$, $p>0.05$ ）。

図3は、桧谷川とその支流における川幅とアシナガグモ・ヤサガタアシナガグモの出現頻度（4種個体数の合計に対するアシナガグモ・ヤサガタアシナガグモの比率）を示している。2種の出現頻度はほとんどの場合0.4以下であり、2種の合計がオオシロカネグモ・タニマノドヨウグモの合計よりも少ないことを示している。川幅とこれら2種の出現頻度の間には正の相関があった（ $N=34$, $r=0.68$, $p<0.01$ ）。これは、川幅が広いほどアシナガグモ・ヤサガタアシナガグモが相対的に多いことを示している。

考察

結果から明らかなように、オオシロカネグモとタニマノドヨウグモが山地溪流に生息しているのに対して、アシナガグモとヤサガタアシナガグモはおもに水田地帯を流れる河川や水路に生息しているが、山地溪流にも分布している。この分布パターンは、各種の生理的な耐性の違いを反映しているのかもしれない。山地溪流は平野部の河川よりいくらか標高が高いだけでなく、木が生い茂り、山や林に日差しを遮られることも多いので湿度が高く、夏は涼しく、冬は寒いと思われる。これに対して水田地帯や

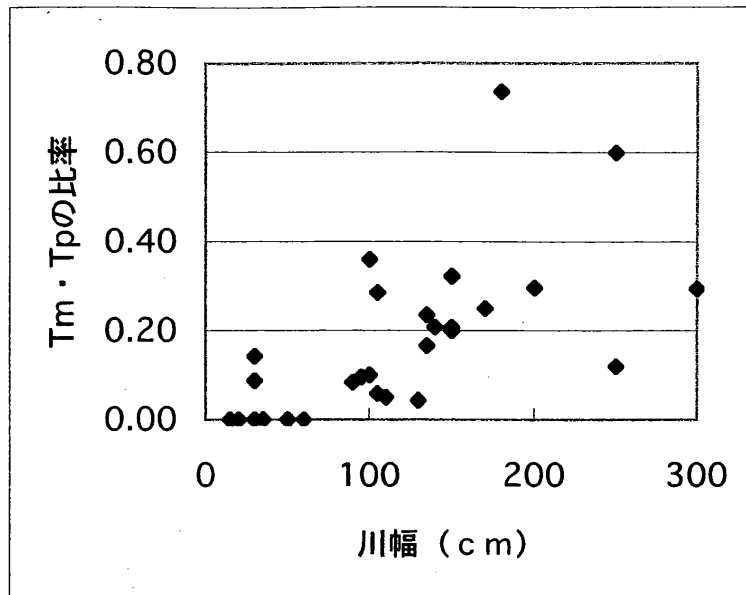


図3 川幅と $T_m \cdot T_p$ 比率の関係。 $T_m \cdot T_p$ 比率は、 T_m (ヤサガタアシナガグモ)・ T_p (アシナガグモ)・ L_m (オオシロカネグモ)・ M_k (タニマノドヨウグモ)の合計に対する $T_m \cdot T_p$ 合計の比率を表す。

住宅地の間を流れる河川では、日差しを遮る林も少ないので、乾燥して、夏は暑く、冬も比較的暖かいであろう。オオシロカネグモとタニマノドヨウグモが暑さに弱く、アシナガグモとヤサガタアシナガグモが暑さに強く寒さにやや弱いと仮定すると、この分布パターンはうまく説明できる。

しかし北海道の幌内川では、森林の中を流れる上流部にはアシナガグモとヤサガタアシナガグモが、苫小牧の市街を流れる下流部にはハラビロアシナガグモが分布していた (Yoshida 1981)。つまり、アシナガグモとヤサガタアシナガグモは寒い地方ではより寒い上流部に分布し、京都のようなより暖かな地方ではより暖かい平野部の河川を中心に分布していることになる。両種は、なぜこのような分布をするのだろうか？

幌内川で見られたアシナガグモ属3種の分布パターンが北海道の他の河川でも見られるかどうかは不明である。しかし、ハラビロアシナガグモは北海道の水田に多く (松村 1998)、北海道と同様に冷涼な気候である長野県南安曇郡豊科町 (標高約800m) では、水田の間を流れる水路に高密度で造網していた (吉田, 未発表) ので、北海道や本州の高地では「平野部型」の分布をしているものと思われる。つまりここでは、アシナガグモとヤサガタアシナガグモにとって、平野部の湿地は「詰まって」いるのである。しかし、上流部はそうではない。オオシロカネグモは北海道には分布しておらず (新海・高野 1984)、タニマノドヨウグモは幌内川には生息していなかった (Yoshida 1981)。つまり、幌内川では、上流部は「空いていた」のである。アシナガグモとヤサガタアシナガグモが広い温度耐性を持ち、ライバルであるハラビロアシナ

ガグモとの競争を避けて分布したことを、幌内川の分布パターンは示唆している。

本州以南では事情が異なる。山地溪流には、オオシロカネグモとタニマノドヨウグモが分布している（新海・高野 1984, 1987; 吉田 1974, 1977, 今報告, Yoshida 1989, 2000）。アシナガグモとヤサガタアシナガグモは山地溪流にも生息している（吉田 1977, 今報告）が、アシナガグモとタニマノドヨウグモの造網場所が重複しているために、前者の網はしばしば後者に破壊される（吉田 1977）。他方、本州以南の平野部の湿地にはハラビロアシナガグモが生息しておらず、水田や河川に造網する水平円網種のニッチは「空いている」。アシナガグモとヤサガタアシナガグモが本州以南では、水田・河川・水路など、平野部の湿地をおもな生息地としている（新海・高野 1984, 1987; 大熊 1977; 今報告）のは、競争者であるタニマノドヨウグモとオオシロカネグモがないためかもしれない。

同じ様な場所に生息する①タニマノドヨウグモとオオシロカネグモ、および②アシナガグモとヤサガタアシナガグモの関係も複雑である。①では、タニマノドヨウグモが溪流の水面上にのみ造網する（吉田 1977; Yoshida 1989）のに対して、オオシロカネグモは溪流上だけでなく、川岸や川からかなり離れた林にも造網する（吉田 1974, 1977）。また、川幅の狭い溪流にはオオシロカネグモが、広い溪流にはタニマノドヨウグモが多い（今報告）。溪流上に造網したオオシロカネグモの網はしばしばタニマノドヨウグモに破壊されるので、溪流では、前者の造網場所選択が後者にかなり影響されている（吉田 1977）。タニマノドヨウグモの造網が溪流上に限定されていることが、両種の共存を可能にしているのかもしれない。

ヤサガタアシナガグモとアシナガグモの生息場所も微妙に異なっている（今報告）。前者は水田に多い（大熊 1977; 八木沼 1965; 松村 1998）が、後者はむしろ休耕田に多い（大熊 1977）。前者が水面上にのみ造網する（吉田 1977, 未発表; Yoshida 1981）のに対して、後者は池のない庭や草地、寺社林などにも生息している（吉田, 未発表）。溪流では、前者は水面に近い高さに、後者はもっと高い場所に造網している（Yoshida 1981）。前者がイネ科など草本植物の緑色の葉を足場に使うことが多いのに対して、後者は灌木や多年生草本植物の枯れた茎など褐色の足場を使うことが多い。造網の足場や高さが異なっているためか、両種間の干渉はあまりみられないようである（吉田, 未発表）。

引用文献

- 松村雄. 1998. 水田生態系における昆虫の多様性とは何か. 水田生態系における生物多様性（農林水産省農業環境技術研究所編）: 127-154. 養賢堂. 東京.
- 大熊千代子. 1977. 福岡市津屋の水田地帯に生息するクモ類の発生消長に関する研究. 九大農学芸誌 31: 133-144.
- 新海栄一・高野伸二. 1984. フィールド図鑑 クモ. 205pp. 東海大学出版会. 東京.
- 新海栄一・高野伸二. 1987. クモ基本 50. 128pp. 森林書房. 東京.
- 八木沼健夫. 1965. 水田に見られるクモ. 植物防疫, 19(9): 361-368.
- 八木沼健夫. 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305pp. 保育社. 大阪.
- 吉田真. 1974. オオシロカネグモの仔グモの成長と分散過程の分析. Acta arachnol. 26:

11-17.

吉田真. 1977. 溪流付近に生息するクモ4種の造網場所選択—餌量を中心とした共存条件についての一考察. *Acta arachnol.* 27 (special number): 261-281.

Yoshida, M. 1981. Preliminary study on the horizontal orb weavers, *Tetragnatha praedonia*, *T. japonica* and *T. pinicola* (Araneae: Tetragnathidae). *Acta arachnol.* 30: 49-64.

Yoshida, M. 1989. Predatory behavior of three Japanese species of *Metleucauge* (Araneae: Tetragnathidae). *J. Arachnol.* 17: 15-25.

Yoshida, M. 2000. Predatory behavior of *Leucauge magnifica* (Araneae: Tetragnathidae). *Acta arachnol.* 49: 117-124.

三朝温泉で見つけた美しいクモの切り絵

船曳和代

一昨年(2000年)の10月、私は友人4人と鳥取県東伯郡三朝町の三朝温泉へ出かけた。10年ぐらい前にも来たことがあり、その時には三朝橋のたもとにある露天風呂へ“旅の恥はかきすて”と女四人、夜の闇にまぎれて入った。この橋の周辺がメイン通りで温泉地特有の歓楽街が続いており、日常から解放された人たちが賑やかに散策していたのを覚えている。

ところが今回は少し雰囲気違っていった。男性を主とした遊び場所は、少なくともメイン通りの一部からは後退し、代わって「湯の町ギャラリー」ということで、“ちぎり絵”や“藍染め”変わったところでは“高野豆腐の彫刻”など民芸品や斬新な作品の展示即売をするおしゃれな店が並んでいる。そして若い女性でも安心して健康的な散策が楽しめるようになっていた。

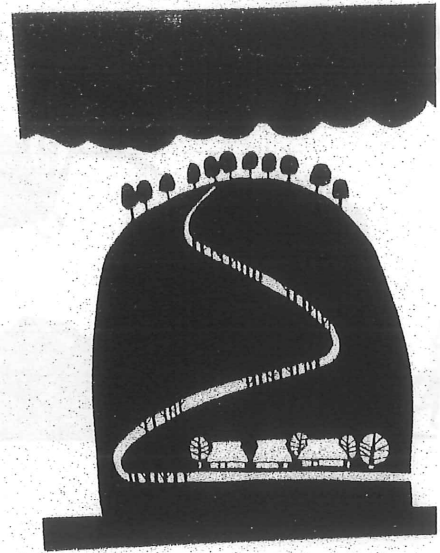
その一つ「陣屋の館」で、民話を題材に作られた美しい“クモ”の切り絵の額をみつけた。残念ながらお話の中のクモは、旅人を殺してその血を吸うという悪者だが、黒を基調にしたシンプルな切り絵はなんとも美しく心に残った。

民話は“人形峠”という岡山県津山市から鳥取県倉吉市へ向かう国道179号線の岡山・鳥取の県境にある峠の名の由来についてのものでした。人形峠は昭和30年にウランの鉱床が発見され一躍有名になったので記憶にある方もおられると思う。現在は時代の最先端の核エネルギーを生み出す拠点になっているが、以前はそれはそれは寂しい山道であつたらしい。だからこのような伝説が生まれるのも無理からぬことであつたのだろう。

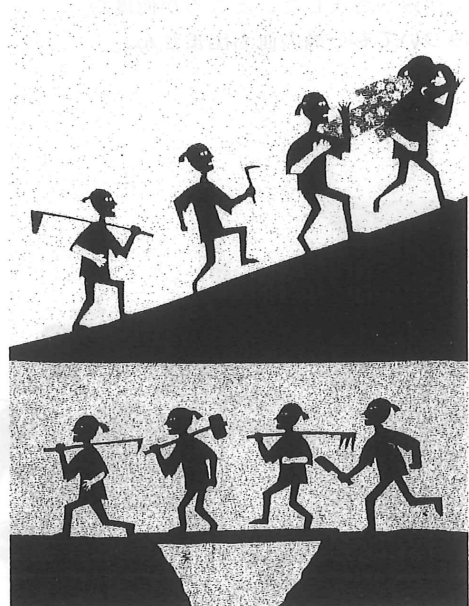
以下に切り絵の写真とその下につけられていた簡単な説明を紹介した。もう二年近く前のことで今はどうなっているかわかりませんが、三朝温泉へ行く機会があれば探してみてください。

人形峠の伝説

1, 伯耆(鳥取)から美作(岡山)に行くには旅人を殺し、その血を吸ってしまうというバケものが出る峠を越えなければなりません。この峠を下ったところに木地山という村がありました。



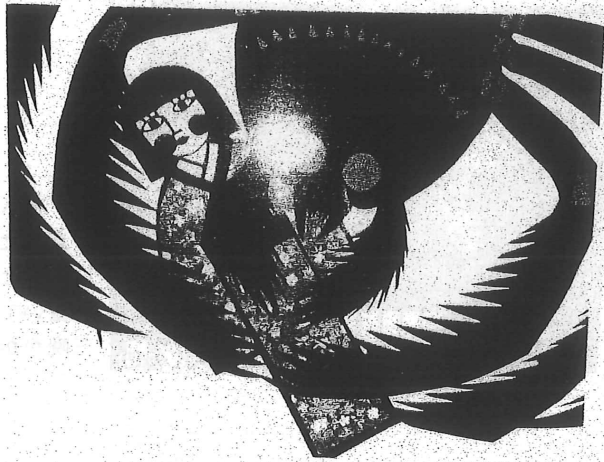
2, 村人たちは何度もバケもの退治の相談をしましたが妙案が浮かびません。この話を聞いていた木地師が「人形をこしらえて峠の道に置いてみてはどがなだいや」と言い、三日三晩かかって人形を作り上げました。



3, 精魂かたむけて作った人形ができあがりました。村の若い衆が手に手にナタやクワを持って集まり、峠まで人形を運びました。人形を木の下に置くと、それはまるで生きている人間のようでした。



4, 村人たちは木かげや岩かげで恐る恐る見張っていました。やがて生ぬるい風とともにみたこともない大グモがのそりと降りてきました。そして無数の糸を飛ばし、人形を縛り上げました。



5, 大グモは、八本の足で人形を抱え込み大きな口を開き、首をめがけてかみつきました。ところが何度かみついても一滴の血も出ません。



6, 「今だあ！」と村人たちは、大グモに襲いかかりました。長い死にもぐるいの戦いが続き、さしもの大グモもじりじりと断崖に追いつめられ谷底へまっさかさまに落ちていきました。

以来、この峠を「人形峠」とよぶようになりました。

とまどい =こんなクモ、みつけた=

石井こうこ

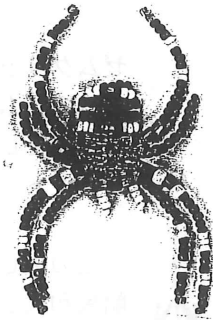
「このクモ美しいけど、何グモかしら？」と友人に聞かれて、「クモ？ 美しい？」私は自分の耳を疑いながら友人の指先を見ました。そこには緑色のお腹の丸いクモが一匹。垂れた糸は金色でベトベトです。今ならそれがアオオニグモ（もしくはビジョオニ）と分かりますが、そのときの私はまったく分かりませんでした。こんなきれいなクモのことが知りたい。そのときから私の「クモ事」が始まったのです。今でもクモは私にとって何かしら戸惑うことばかりです。そうこうしているうちに、何かいっばいクモが集まって来たのでここに紹介します。

〈アクセサリー編〉

ビーズでできたコガネグモ

小笠原幸恵さん作

ちゃんと外雌器まで付いた本格的なものです。

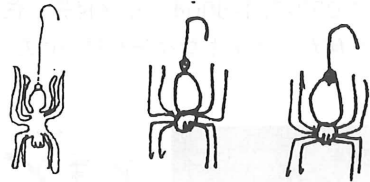


クリスタルグモ

腹部がクリスタルで作っており、頭胸部と脚は金色。小松市の友人がそのまた友達からもらったもので、巡り巡って私のところへ来た一番のお気に入り。

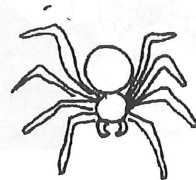
ピアスいろいろ

アクセサリー売り場に行くと、すぐにクモのモチーフを探してしまいます。店員さんに「クモのピアスありますか？」と聞いても「さあ？」と答えはいつも同じです。そこで、私はいつも黙々と探すのですが、今では大きいものから小さいものまでいろいろと持っています。



ピンブローチ (タイピン)

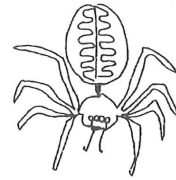
名古屋金山にあるボストン美術館の売店で見つけました。腹部が真珠でできていて、イヤリングだったものを小笠原さんがピンブローチにしてくれました。一つは須賀先生がお持ちです。私とペアなのよ！



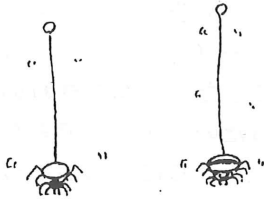
ハリ金グモ (ゲホウグモ)

合田丞さん作

合田さんは職場の友人の夫で、ハリ金細工師。いろいろなクモを注文して作ってもらったのですが、中でもゲホウグモがいちばん作りにくかったようです。注文がうるさかったからね。

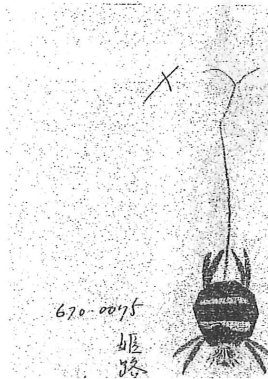


ゲホウグモ



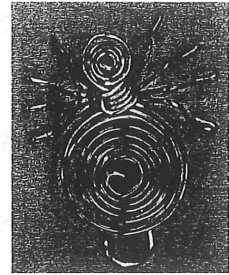
100円ショップのクモ

クモを下にジーンと引っ張って、手を放すとクモが上へテケテケと登っていきます。おもしろくて何回もやってしまいます。



ゼムクリップ

クモのゼムクリップ。使っていると、どこかへ逃げてしまいそうです。船曳さんからのプレゼント。(右)



クモの押し花封筒

船曳和代さん作

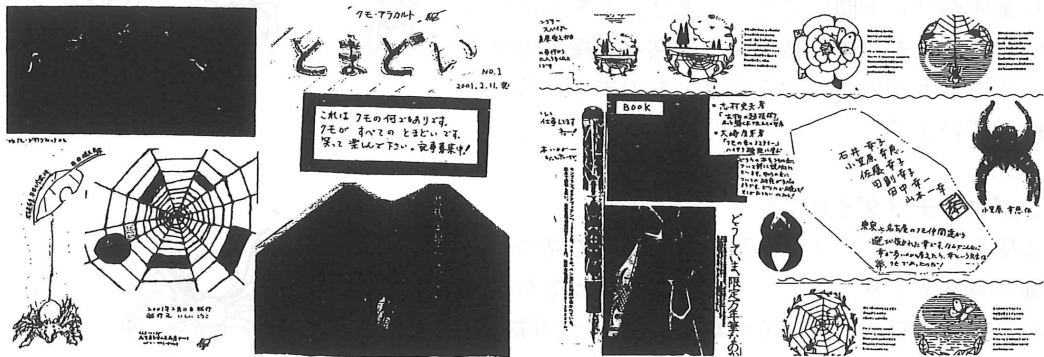
押し花のできたクモが姫路から名古屋まで飛んできました。ステキでびっくり。うれしくなっちゃった。(左)

このほかにも、石井こうごさんには新聞広告や雑誌の記事の中などで発見されたクモをいろいろ送っていただきました。ここに紹介したもの以外は石井さんご自身が発行されている『とまどい』という冊子に掲載されています。

『とまどい』を読んでみたい方は、石井こうごさんまでFAXでご連絡ください。

FAX: 052-771-8004 ※送付先(住所・氏名)書いてね。

また何か、ステキなクモを見つけたら、写真を撮って送ってください。(柘元)



石井こうごさん発行の「とまどい」。

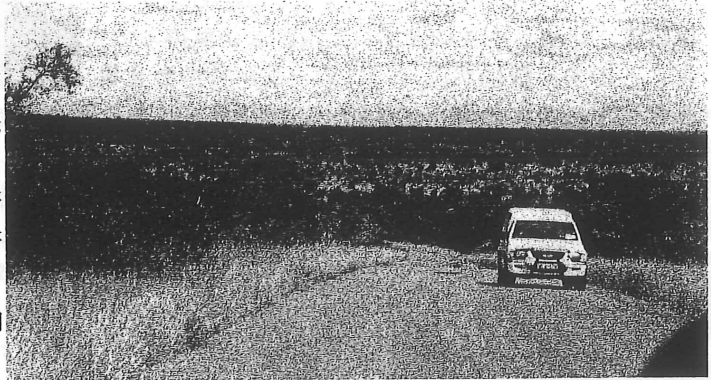
報告

国際クモ学会 in Africa

梶元ともこ

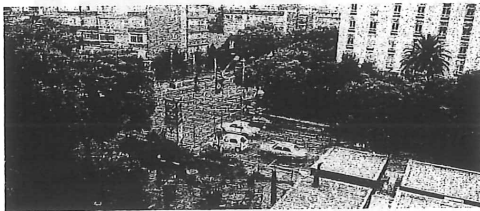
初めてのアフリカ

3月25日から5日間、南アフリカで開催された国際クモ学会に行って来ました。日本からは宮下さん、鶴崎さん、東大大学院生の島崎さん、草原さん、長崎さん、そして、私たち夫婦が参加しました。



関西空港から南アフリカの国際空港ヨハネスバーグまでは約13時間。途中、シンガポールで乗り換え、ここで宮下さんたちと合流しました。

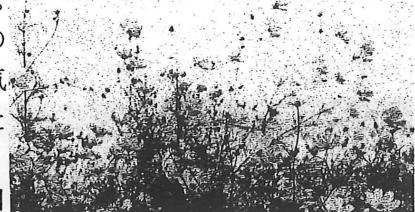
実は、ヨハネスバーグは強盗の頻発地帯で、外務省の危険勧告1（滞在に当たって特別な注意が必要）が出ているところです。行く前は、周りからさんざん危ないといわれて、かなり緊張していましたが、幸いなことに何事もなく、集合場所である南アフリカの首都プレトリアに到着しました。



ホテル224の窓から眺めたプレトリアの町

プレトリアは緑の多い美しい街で、私たちが泊まったホテルの周辺は、首都というより郊外の住宅街という感じ。ヨハネスバーグより安全ということで、街の中を少し散歩することもできました。

翌日、学会の参加者が集合し、バスで学会会場となるバドプラスというところにある温泉リゾートへ移動しました。バスで3時間ぐらいかかるのですが、窓から見える景色はそれはもうアフリカ。地平線が見えっぱなしで、大陸だあ！と大感激。むやみにカメラのシャッターを切って、フィルムをたくさん消費してしまいました（同じような景色が続くので、そのうち慣れてしまうけど）。途中、すごい雷雨にも遭遇して（スコールというのかどうかは分からない）、ちょっとアドベンチャー気分も味わえました。でも、雨はこのときだけ。あとはずっといいお天気でした。

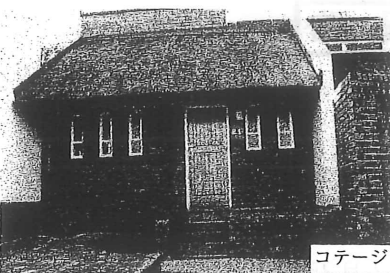


ひとつ、私がすごく不思議だったのは、草花が日本と変わらなかったことです。道路脇には果てしなくコスモスが植わっていて、ドライブインの裏にタデの花が咲き、プレトリアの街中ではカンナが花盛りというように、人が植えた植物はほとんど見慣れたものばかり。栽培植物は世界共通ということなのでしょう。ただし、樹木は日本とかなり違って、特にアカシアの木がアフリカ

っぱかったです。

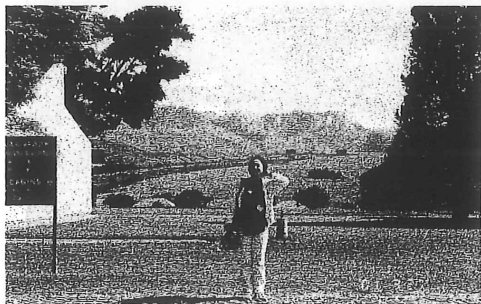
クモ学会なのにバードウォッチング

この温泉リゾートは、宿泊用のコテージ、温泉、プール、レストラン、ホテル、ホールなどがあるリゾート施設で、芝生と木々に囲まれたなかなか気持ちの良いところです。敷地が広く、コテージから学会会場、



コテージ

学会会場から食事の場所へ移動するのにちょっと歩かなくてははいけません。初めは不便やなあと思いましたが（日本人やね）、そのうち散歩気分で移動できるようになり、けっこうこの移動が楽しみになりました。というのは敷地内には鳥が多く、それも見たことのない（当たり前だけど）、私にとっては珍しい鳥ばかりで、バードウォッチングが堪能できたからです。



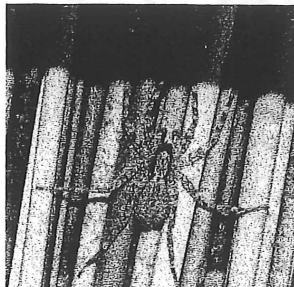
私はここで得難いバードウォッチングの師匠、マルコム・エドモンズさんに会いました。エドモンズさんは「動物の防衛戦略」を書いたイギリスの擬態の研究者です（結構有名人かも）。時差ばけで朝早く目が覚めるので、散歩がてらにバードウォッチングに出ると、毎朝、双眼鏡を持った背の高いヒョロッとしたおじいさんに会います。この人がエドモンズさんで、すぐに挨拶するようになり、会うといつも「あのお腹が黄色い鳥はbulbulという鳥である」などと教えてくれるようになりました。英語なので、初めは何をいっているのか分からなかったのですが、だんだん何となく分かるようになり、最後には「今日はどんな鳥を見た」などと話すようになりました（私はほとんど単語の羅列だけど）。



エドモンズさんと。

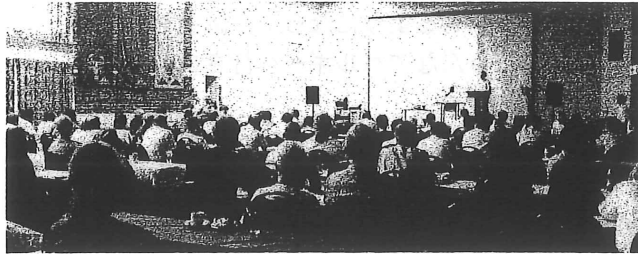
食事がたいへん

この学会に何人参加していたのか正確にはわかりませんが、講演者が約180名ぐらいなので、その家族や講演しなかった人をいれると250人ぐらいはいたのではないかと思います。そこで、たいへんだったのが食事でした。食事はいつもお皿を持って好きな料理を取るビュッフェスタイルなのですが、なにしろこの人数が毎回一列になって並



ぶのですから、時間のかかることかかかること。しかも品数が多いので、一人が料理を取るのにも時間がかかるのです。初めはうんざりしながら黙々と列に並んでいましたが、だんだん前後の人と話をしながら並ぶようになり、この時間も楽しくなりました。

料理はサラダや肉料理がそれぞれ何種類も用意され、アフリカの郷土料理やデザートなどもあって、夕食は結構豪華なものでした。タロイモやビーツといった日本人にはなじみのないものもありましたが、どのメニューもまったく違和感なく、おいしくいただけました。



学会会場



ポスター発表する長崎さん

英語はできなくても

当然のとながら、学会講演はぜ～んぶ英語。英語のできない私は、講演の内容があまりよく分からないので、講演はそこそこにして、(講演内容については、Actaの榊元敏也の報告をお読みください)。のんびり5日間を過ごしました。たまたま講演をのぞき、ポスター発表を見て、船曳さんの「ウェブアート」を紹介し、クモを採って、ネコと遊んで、散歩して、鳥を見て、プールや温泉に入って、地元の郵便局で切手を買って、友達に手紙を書いて(このときのハガキは、私たちが帰国して1週間後にやっと着いた)、トリゾート気分でした。

講演を聴かないなら普通のアフリカ旅行とかかわらないではないか、という方がいるかもしれません。でも、普通の旅行では世界中のクモ好き(クモ研究者)と知り合うことはできません。

そうなんです、国際学会の楽しいところはいろいろな国のクモ好きと知り合えることなんです。私の場合、知り合いになれたといっても、ちゃんとコミュニケーションがとれたとは言い難いから、顔見知りになったといった程度ですけど……。でも、遠かった世界がぐーんと身近になって、うきうきした気分になります。これが学会のいちばんの魅力じゃないでしょうか。だから、英語が苦手でもぜんぜん平気です。

とはいえ、ちゃんと英語が話せたら、もっと多くの情報が得られ、もっといろいろな話ができ、理解を深めることができただろうと思います。さらに言えば、学会発表したらもっと充実感があるに違いありません。



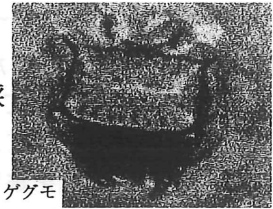
今回、東京大学の院生の女性二人も学会発表をされたのですが、発表前はかなり緊張ぎみだったのですが、終わったとたん晴れ晴れとしたとってもいい表情をしていました。学会って、見ているだけではなく参加するともっと楽しい、お祭りみたいなものかもしれません。あなたも国際学会で研究発表をして、充実感を味わってみてはいかがですか？



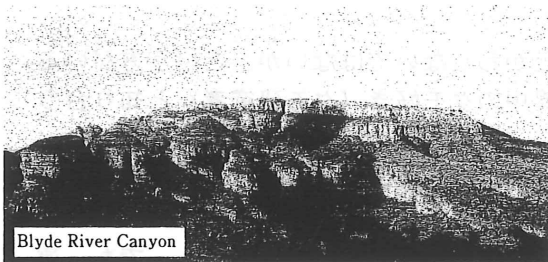
3年後はベルギー。私たち夫婦は大胆にも、いろんな人と3年後に会いましょうと口約束してしまいました。次回はもう少し英語が話せるようになって、講演もしっかり聴けるようになりたいと思っています。ぜひ、みんなでベルギーへ行きましょう！

最後に悔しかったこと

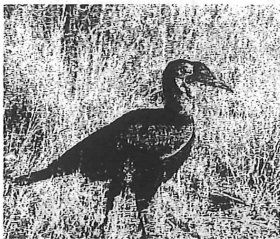
学会のあとで、私たち夫婦はクルーガー国立公園のサファリツアーに参加しました。途中でアフリカのトゲグモ *Gasteracantha versicolor* が採れて、大喜びしていましたが、なんと最後の宿泊先、ヨハネスバーグのホリデーインにトゲグモの入ったフィルムケースを忘れてきてしまったのです。悔しい！ 悔しい！ 帰国後一週間ほどあきらめきれませんでした。生きたままだったので、もしかしたらホテルのメイドさんを驚かせてしまったかもしれません。四角い体をした *Isoxya tabulata* は持って帰りました。これは本当におもしろい形です。もう一度、アフリカへ行って、幻になってしまったトゲグモを採るぞ～！



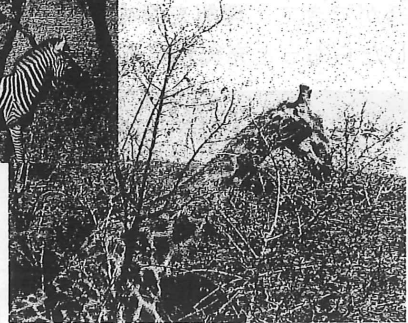
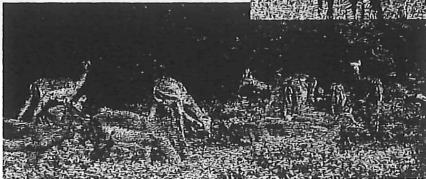
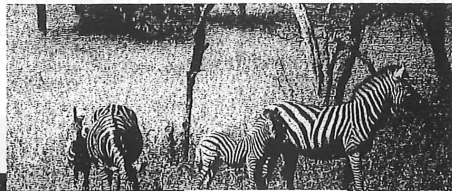
四角いトゲグモ



Blyde River Canyon



The Kruger National Park



ちよこっとニュース

イソコモリグモが悶死！

ハエだけやっていると栄養が偏るかもしれないので、夜な夜な自動販売機を渡り歩いて虫を採集することにしました。しかし、今年は暑くて雨が少なかったせいか、カゲロウも蛾もほとんど取れない。仕方がないので、自動販売機の周りに網を張っているイエオニグモの幼体を捕まえて餌にした。イエオニグモを飼育容器に入れると、イソコモリグモはいきなり捕まえて咬みつく。後者の方が何倍も大きいから、これは当たり前。ところがある日、とんでもないことが起こったのである。我が家で一番大きいイソコモリ（体長20あまりで先日産卵したもの）に体長6mmほどのイエオニを与えたところ、イソコモリはいきなり咬みついたが、何か様子がおかしい。イソコモリも咬まれているらしい。そのうちにイソコモリがひっくり返った。イエオニはその上にのっかっている。やがて両者は離れたが、イソコモリはぐったりしており、イエオニはよろよろと歩いていた。翌日、イエオニは元気になっていたが、イソコモリは白い排泄物をたくさん出して、息絶えていた。これはどうゆうこと？イエオニの毒の方が強いということか、イソコモリの方が毒の感受性が高いということか？

両者が野外で出くわすことは考えられないが、危険な餌に遭遇することはあるかもしれない。そんなとき、イソコモリはどうするのだろうか？襲った相手にやられてしまうこともあるのだろうか？（吉田真）

編集後記

●大変遅れましたが、くものいと30号をお届けします。本当はもっと早く発行するはずだったのですが、私のエクアドル行きなどのためにすっかり予定が狂ってしまいました。おまけに、原稿があまり集まらず、四苦八苦した30号でした。しょうがない、こういう時は自分らで書くしかない。新海明さんら、キシダイアの編集部の教えを守って、キシダイアに投稿する予定だった原稿を、急遽くものいと30号に掲載したのです。

ところがなんと、私の原稿はすでにキシダイアに投稿されていたのです！確かに投稿したと思ってはいたのですが、キシダイア80号にも載っていないし、いつもの通り(?)、これは投稿するのを忘れていたのだと早合点。ああ、この二重投稿をなんとしよう？谷川さん、ごめんなさい！

というわけで、何とかページ数の帳尻あわせをしたのですが、くものいとは私の同人誌ではないので、皆さん、31号はぜひ原稿を書いて下さい。切なるお願いです！（吉田）

●9月、これで夏も終わりかと思うと無性に寂しい。年とともに時間が早く流れていく。今年は7月から8月にかけて2週間ばかり海外旅行に出かけたせいかわりに夏が短く感じられました。「くものいと」30号、ようやく発行にまでこぎつけることができました。編集委員になって焼く年半、定期的に発行することがいかに難しいか身にしみています。次の号にはたくさんの原稿をお寄せ下さることをお願いします。（船曳）

●「くものいと」30号の発行が大幅に遅れ、申し訳ありません。今回の遅れは私のグズグズが原因です。今回は執筆者が少なく、その分、吉田編集長ががんばってくださいました。次回はもっと多くの方々に執筆していただけるよう、たくさんの方々に原稿依頼をいたします。みなさん、どうぞ、快くお引き受けくださいませ。ねっ！（榎元）

〈関西クモ研究会〉会長 山野忠清
編集 吉田 真
船曳和代
榎元智子
庶務 加村隆英
会計 牧野達也
顧問 西川喜朗

くものいと30号 発行年月日 2001年9月15日
発行者 関西クモ研究会（代表 山野忠清）
住所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学 生物学研究室内
TEL：0726-41-9550（加村研）
